

令和4年度

事業報告及び法人会計決算（計算書類及び財産目録）



社会福祉法人 四万十市社会福祉協議会

目 次

1. 令和4年度 事業報告	1 頁
①令和4年度事業 報告附属明細書	32 頁
2. 令和4年度計算関係書類及び事業等区分一覧表	
① 〃 資金収支計算書（第1号の1様式）	32-2 頁
② 〃 資金収支内訳表（第1号の2様式）	35 頁
③ 〃 法人拠点区分資金収支明細書（別紙3（⑩））	38 頁
④ 〃 事業活動計算書（第2号の1様式）	41 頁
⑤ 〃 事業活動内訳表（第2号の2様式）	45 頁
⑥ 〃 法人拠点区分事業活動明細書（別紙3（⑪））	48 頁
⑦ 〃 貸借対照表（第3号の1様式）	51 頁
⑧ 〃 貸借対照表内訳表（第3号の2様式）	52 頁
⑨ 〃 財務諸表に対する注記（法人会計）	53 頁
⑩ 〃 財産目録（別紙4）	55 頁
⑪ 〃 監査報告書	56 頁

令和4年度事業報告（概要）

社会福祉法人 四万十市社会福祉協議会

少子高齢化の進行と人口減少で、地縁や血縁といった共同体機能の弱体化など、社会構造の変化により、地域における支援ニーズが複雑化・多様化しております。新型コロナウイルス感染症拡大が始まり3年の歳月が過ぎ、経済活動に大きな影響が出ており、困窮する世帯が増加しました。新型コロナウイルスの影響による特例貸付も9月末には終了し、令和5年の1月からは償還が始まっております。

対面による会議や研修会は、中止や延期が相次ぎましたが、オンラインを活用した研修会等も行われ、2月には3年ぶりに、令和4年度四万十市社会福祉大会を開催することが出来、自粛生活や各種制限などが緩和され、地域での行事やイベントも徐々に戻りつつあります。

第3期四万十市地域福祉計画が3年目となり、「誰もが安心して暮らせる笑顔あふれる四万十市」を基本理念として、市内を12圏域（中学校区）に分け住民座談会を、1地区3回を目標に掲げ可能な範囲で開催しました。各種事業も、感染対策を行い実施した他、民間が参入しない訪問入浴事業については、依然として利用者数は低迷しておりますが、公共性の高い社会福祉法人として、社会福祉法を遵守しながら、市民から頼られる社会福祉協議会の運営を行いました。

以下、令和4年度の各事業等の状況について重点目標に沿って報告します。

重点目標

1. 地域福祉の推進とボランティア活動の充実
2. 総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進
3. 在宅福祉サービスの充実
4. 法人運営と地域福祉計画の推進

1.地域福祉の推進とボランティア活動の充実

①生活支援コーディネーター(SC)設置業務 (地域福祉活動事業サービス区分)

《 市受託金決算額 12,896,908円 》 < 職員2名 >

生活支援コーディネーターは、高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的として、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築や社会資源の開拓に取り組んでいます。

今年度は新型コロナウイルス感染症とともに活動を再開していくことと捉え感染症対策を実施し、いつまでも健康・元気で住みやすい地域社会を作っていくための多様な介護予防・生活支援サービスの創出や高齢者の社会参加の促進に向けて取り組みの推進を図りました。

第1層推進会議では、見守りを通じた地域づくりを目的に、「見守りシート」の作成を取り組みました。隣近所で支えあう仕組みを再構築するため、来年度に全戸配布を実施して、効果や必要性について調査・改良を進めていきます。

第2層推進会議(福祉計画座談会)は、新型コロナウイルス感染症感染状況に伴い開催が進んでいない地域もありましたが、中村地域のおはボラや異同地域の子どもの居場所づくりなど年間を通しての子どもを交えた新たな世代間交流の仕組みができ、新型コロナウイルス感染症に伴う地域交流減少という地域課題に対して地域交流イベント(花見やわなげ)を実施することができた地域もありました。

地区健康福祉委員会の介護予防活動の充実・強化を目的とした「健康づくりサポーター養成講座」、多様な訪問型サービスの開発に向けた「いきいき生活応援隊員養成講座」も例年通り開催しました。3年ぶりに健康福祉委員会の地域別意見交換会も実施し、くらし助け愛隊の周知も行いました。養成講座で養成した人材の活動機会の創出に向けて、社協ボランティアセンターと連携を図りながらマッチングに努めていきます。

これまで同様、既設の健康福祉委員会の活動支援や相談対応にも取り組み、世話人の後継者がいない、新規加入者がいないといった課題を解消するため、世話人が少しでも楽になるような素材(介護予防メニューのDVDや冊子)を有志で作成していくことを進めています。未設置地区の他に休止地区も増えつつあるため、お試し版の健康福祉委員会立上をサポートしていく提案書類を作成しました。新たな設立もですが、休止地区が増えない支援を進めていきます。

<主な活動内容>

生活支援体制整備事業関係	件数	備考
①二一ズや地域資源情報の把握	61件	地域ケア会議他
②サービス・支援の担い手の養成	29件	健康づくりサポーター養成講座他
③推進会議(第1層・第2層)	93件	
④関係者間との情報共有	61件	行政・事業所他
⑤研修会の参加(研修会・出張他)	12件	
計	256件	

健康福祉委員会関係	件数	備考
①介護予防・健康推進事業への協力	115件	介護予防体操・学習会他
②健康福祉委員会の設立関係	16件	
③意見交換会の開催・参加	18件	
④活動の広報支援	14件	「地域のいきいき活動」・社協だより
⑤わなげ普及事業関係	39件	わなげ交流大会他
計	202件	

1.地域福祉の推進とボランティア活動の充実

②コミュニティソーシャルワーカー（CSW）設置事業（地域福祉活動事業サービス区分）

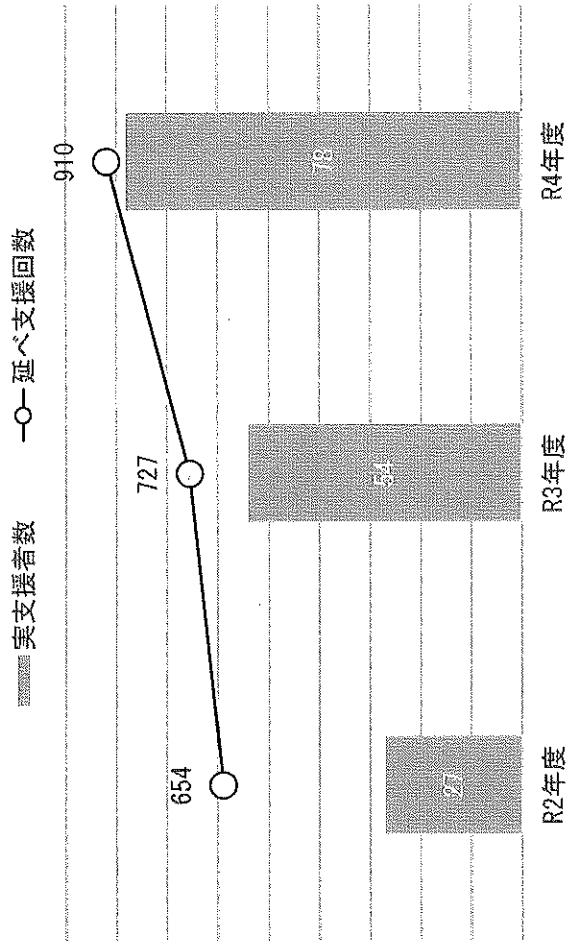
《 市受託金決算額 7,126,691円 》 < 職員 1名 >

R2年度よりコミュニティソーシャルワーカーを1名配置し、個別支援については、ワンストップで分野を問わず相談・支援を行うことや、分野間の相談機関で連携を密にすることで、対象者やその世帯について、分野横断的かつ包括的な相談・支援の実現に向けて、専門職や関係機関をつなぎ、課題解決のためのネットワークづくりに努めています。徐々に当該事業の認知が進み、実支援者数・延べ支援回数ともに増加してきております。R4年度は、地域住民や関係機関から寄せられる情報が多く寄せられるようになり、延べ910件の支援を行いました。

制度の狭間の課題として代表される「ゴミ屋敷」の課題がスムーズに進んでいない事例も残っております。実際に、多職種連携により解決できた事例もあれば、ゴミの問題を本人が認識しておらず、支援がスムーズに進んでいない事例も残っております。

地域連携を推進するツールとして、「地域福祉ネットワーク会議」を設置し、4事例について区長や民生委員といった地域住民にも支援プロセスに参画いただき地域生活課題の解決を図りました。今後も当該会議を「地域連携」を推進していくツールとして展開し、地域で発生する個別課題を「我が事」として捉え、課題の解決のための仕組みづくりを「多職種連携」と「地域連携」の両輪で推進してまいります。

支援実績の推移



年齢層の内訳（令和4年度）

項目	人数	件数
子育て中の親子	2人	3件
青年期（15～24歳）	0人	0件
壮年期（25～44歳）	4人	56件
中年期（45～64歳）	23人	351件
高齢期（65～74歳）	24人	281件
後期高齢期（75歳以上）	26人	219件
不明	0人	0件
計	79人	910件

1.地域福祉の推進とボランティア活動の充実
 ③高齢者閉じこもり等予防支援業務事業 (地域福祉活動事業サービス区分)

《 市受託金決算額 2,743,219円 》 〈 職員 1名 〉

この事業は、閉じこもり等支援が必要な高齢者を効果的かつ有効な方法で早期把握し、介護予防活動等へ繋ぐことで、要介護状態に陥ることを防ぐことを目的としています。民生委員や健康福祉委員会等から聞き取った情報をもとに訪問し、必要に応じて他機関や制度等へ繋ぐ支援を行いました。民生委員さんからの聞き取りが概ね一通り終了したため、転入者をリストアップして訪問することも始めています。あつたかふれあいセンター等の集いの場や地域包括支援センター等の専門機関に繋ぐことで、閉じこもりがちな高齢者の社会参加や介護予防、重度化防止に寄与していると考えます。

閉じこもり報告会を定期的に開催し、高齢者支援課、地域包括支援センター、あつたかふれあいセンターと支援内容の検討等を行うことができました。多職種多機関との連携を図ることで、対象者により適した支援を提供することができています。
 また、傾聴ボランティア、認知症家族の会たんぼのメンバーと個人宅へ同行訪問を行い、精神的不安を抱えた対象者へ寄り添った支援を心がけました。

項 目	H30年度	R1年度	項 目	R2年度	R3年度	R4年度
個別訪問件数	387	224	個別訪問件数	374	288	194
うち新規件数	77	67	うち新規件数	86	73	38
うち終了件数	55	73	うち終了件数	89	65	44
他機関への繋ぎ等件数	18	4	継続訪問者翌年度繰り越し数	1	8	3
事業説明・聞き取り等訪問件数	35	21	住民情報聞き取り地区数	13	30	3
定期閉じこもり報告会等 (回)	12	12	定期閉じこもり報告会等 (回)	8	9	11
個別ケース検討会 (回)	19	5	個別ケース検討会 (回)	13	14	19
緊急通報装置撤去作業件数		16	その他会議・研修参加	26	33	25

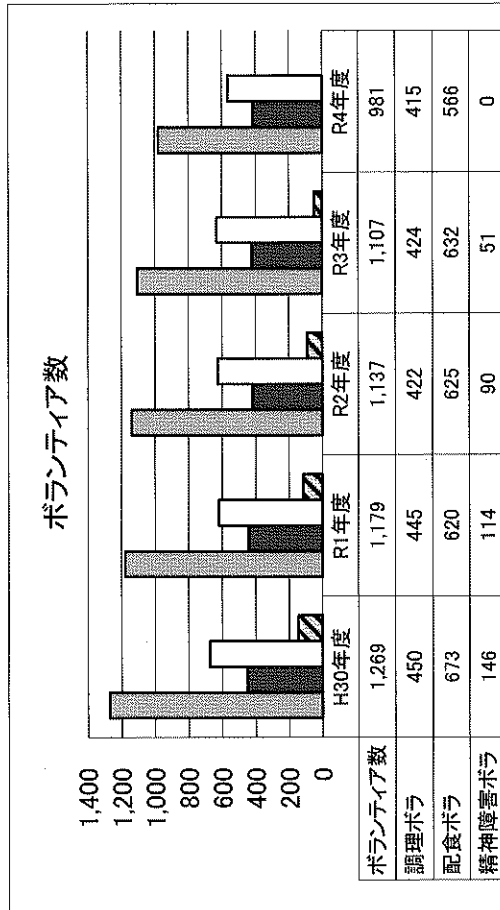
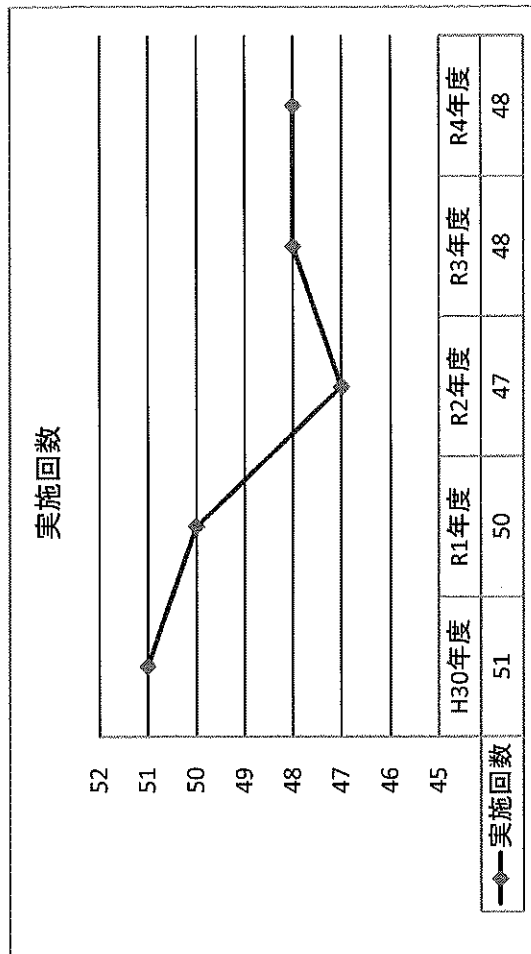
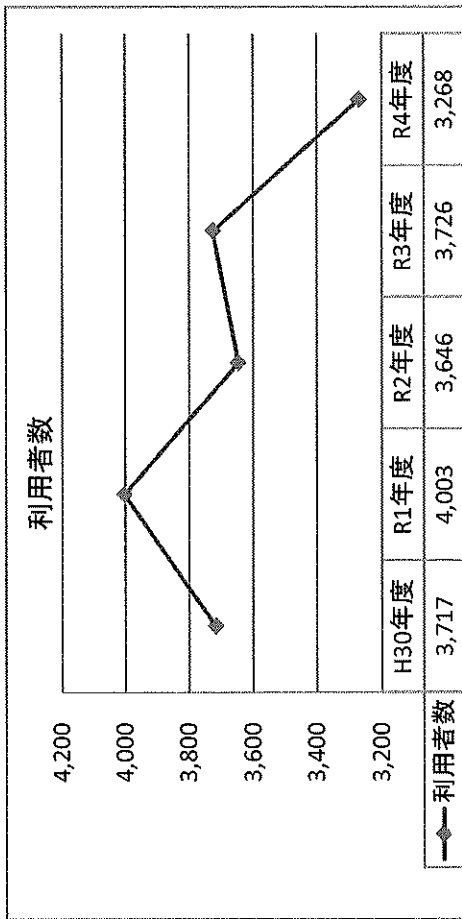
1. 地域福祉の推進とボランティア活動の充実
 ④ 中村地域配食サービス事業 (共同募金事業サービス区分)

〈パート1名 調理ボランティア9名 配食ボランティア14名〉

《 会費収入 273,000円 市補助金 177,747円 共同募金配分金 1,116,439円 利用者負担額 980,400円 決算額 2,547,586円 》

75歳以上の在宅で一人暮らしの高齢者や重度の障害者世帯に対し、毎週水曜日にボランティアの協力を得て安否確認を目的に訪問し、昼食用のお弁当を配達しています。

令和5年3月末の登録者は96名、1回の平均利用者は68.1名でした。通院や入院、他の福祉サービスの利用等により、単発的に利用をしないこともあり、昨年度と比べて平均利用者数は減少しています。配達ボランティアは、主に民生委員の協力を得て行っていますが、配達・調理ボランティアの新規登録が少ない状況だった為、年間を通して呼びかけた結果、微増しました。しかし、まだ十分な人数が確保できていないことから、次年度も引き続き広報等にて募集を行う予定です。令和5年度より安否確認を目的とした点を認識しやすいよう、名称を「見守りサービス事業」に変更します。



※令和3年度をもって精神障害者ボランティアによる配達は終了となり、令和4年度から未実施となっています。

1.地域福祉の推進とボランティア活動の充実

⑤ボランティアセンター事業（ボランティア活動事業サービス区分） 《職員1名》

《市補助金収入 4,847,000円 会費収入 70,000円 共同募金配分金 201,000円 寄付金 200,000円 その他の収入 871,009円 サービス区分間繰入金収入 950,000 決算額 7,139,009円》

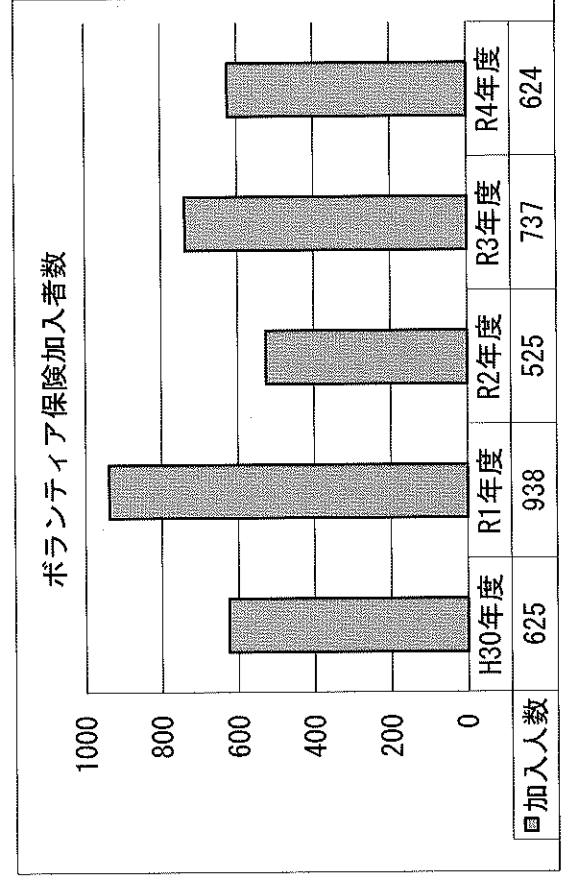
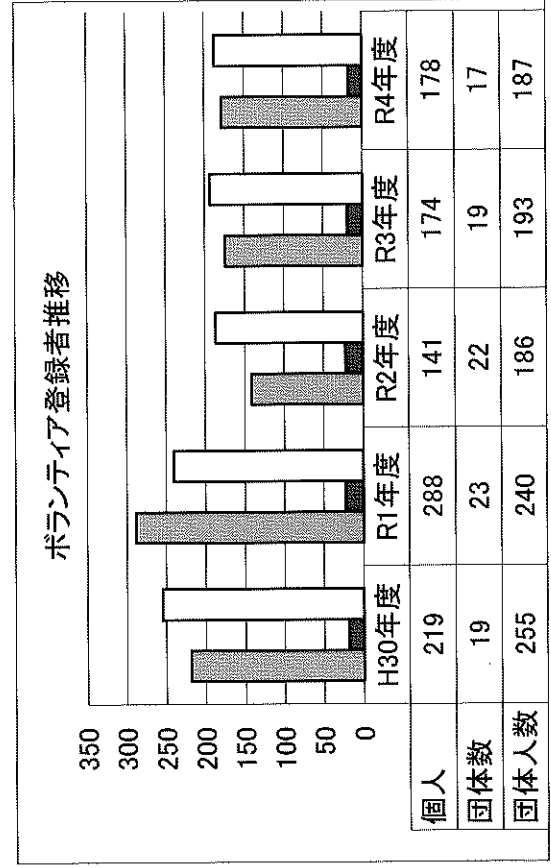
新型コロナウイルス感染拡大の影響に限られた範囲でのボランティア活動となりましたが、傾聴ボランティアは感染状況を見ながら個人宅訪問を行い、定例会については毎月開催することでスキルアップにつながりました。

災害ボランティア研修会は、昨年度受講した方を対象にレベルアップした内容で開催することができました。コロナ禍においても災害は発生する恐れがあり、災害ボランティアセンターが立ち上がった際には何らかの形で協力してくれることを確認しました。

高知県社会福祉協議会主催のナツボラにまちなかサロンが参加し、高校生のボランティアを受け入れました。施設や学校からのボランティア要請には、例年通りボランティア団体等を派遣するコーディネートの役割も果たしています。

なお、昨年度より災害時の積立として市補助金を合わせて1,000,000円にしています。200,000円の寄付金があったため1,200,000円を災害時のボランティア活動資金として運用できるように毎年繰り越していくこととしています。

- ・傾聴ボランティア 個人宅訪問実利用者数 2名 訪問者延11名 定例会12回 参加者延54名
- ・災害ボランティア研修会Ⅱ 参加者15名
- ・災害ボランティア事前登録者総数 29名
- ・「ナツボラ」参加学生ボランティア 2名（保険対応21名）
- ・くらし助け愛隊 マッチング件数 8件 活動日数42日



※R1年度から加入人数は、間接的に加入している人数も含んでいます。

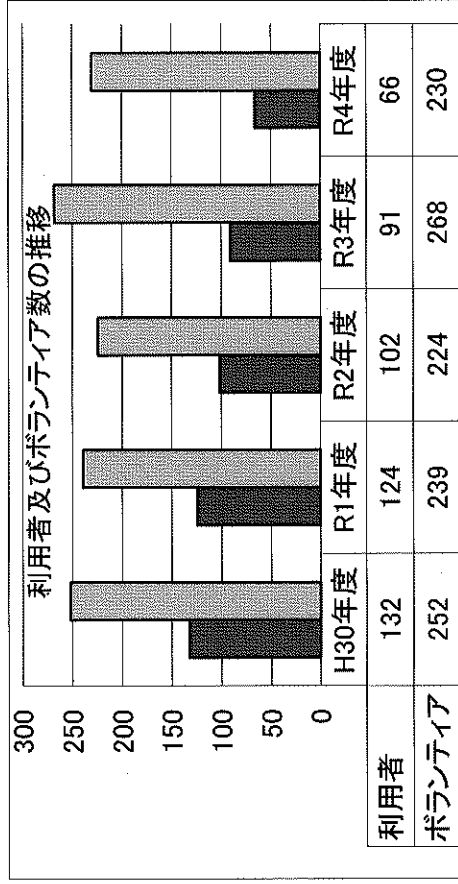
1. 地域福祉の推進とボランティア活動の充実

⑥ 障害者等サービス事業（共同募金事業サービス区分）

《 会費収入 9,000円 共同募金配分金 7,808円 決算額 16,808円 》

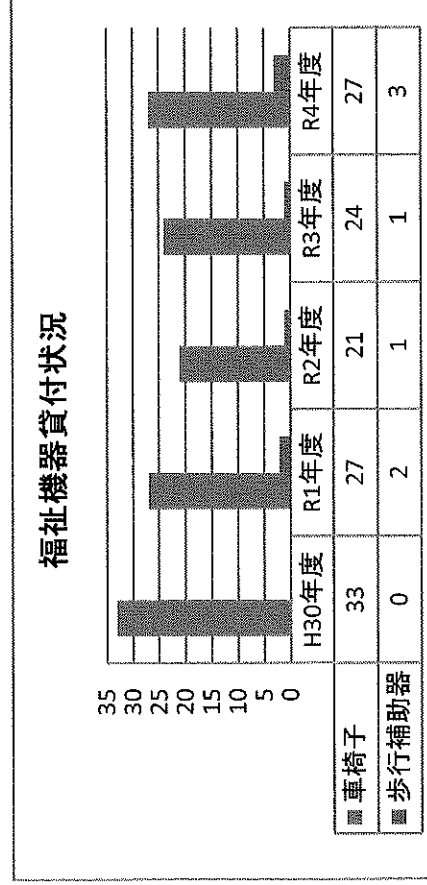
朗読サービス事業

朗読ボランティアの協力により、情報不足になりがちがちな視覚に障害のある方等に、毎月市の広報と社協だよりをCDに録音して送付し、日常生活に必要な情報提供を行いました。
また、市図書館にも毎月朗読CDを送付して市民への貸出も行っておりますが、利用者が激減していますので民生委員等に協力を呼びかけ利用者を増やしていきます。
実利用者 6名



福祉機器貸付事業

身体機能の低下した障害者や高齢者等の生活支援の為、車椅子等を一定期間無料で貸し出し、日常生活の利便を図り、生活の質の向上と併せて介護者の負担軽減に努めました。



1.地域福祉の推進とボランティア活動の充実

⑦福祉教育の推進（共同募金事業サービスクラス区分）

《職員兼務2名》

福祉教育を通じて、市内小・中学校の児童生徒、企業等にボランティア活動の意義や地域社会の理解を深めるよう努めました。

5月に全小・中学校に直接ガイドブックを持参し、学校への周知を図ったこと、実施回数が増やすことにつながった他、各ボランティア団体と連携を取り、幅広い福祉教育を展開すること、ができました。また、看護専門学校の学習した看護の知識・技術・態度等を実践へ適用する能力を育成することを目的とした臨地実習や、大学で社会福祉士を目指す学生を受け入れて、社会福祉協議会の役割や地域福祉についての教育の場としてもしています。

今年度は企業からの依頼もあり、業務に直接生かすことができ、福祉教育を提供することができました。今後、広く地域のみならず福祉教育による体験を通して、地域福祉の推進につながる働きかけができるよう努めていきます。

学校名等	実施日	体験学習等			
		内容	学年	人数	備考
県立中村中学校	R4. 6. 22	福祉の仕事紹介	1	42名	
	R4. 6. 29	障害者の日常生活			
	R4. 7. 6	高齢者疑似体験・車いす体験			
	R4. 11. 30	地域との交流・手話学習			
	R4. 12. 7	障害者スポーツ			
四国医療福祉総合学院	R4. 6. 1～7. 1	社会福祉士実習	-	2名	
	R4. 6. 22	高齢者疑似体験	2	36名	
四万十看護学院	R4. 7. 5, 8	老年看護学実習1	2	4名	延2日間
	R4. 7. 15, 19	老年看護学実習1	2	5名	延2日間
高知県立大学	R4. 8. 15～9. 15	社会福祉士実習	-	2名	
東山小学校	R4. 11. 1	手話学習	2	49名	
西土佐小学校	R5. 1. 9	高齢者疑似体験・車いす体験	1・2	23名	
幡多看護専門学校	R5. 1. 16, 17	老年看護学実習1	2	4名	
蕨岡小学校	R5. 1. 21	高齢者疑似体験・手話学習	3・4 全学年	5名/ 21名	手話学習:全学年
中筋小学校	R5. 1. 21	高齢者疑似体験	2・3	10名	
八束小学校	R5. 2. 7	高齢者疑似体験	3・4	9名	
中村西中学校	R5. 2. 7	車いす体験・視覚障害者体験・手話学習	2	78名	
西土佐中学校	R5. 2. 16	高齢者疑似体験	2	13名	
利岡小学校	R5. 3. 9	高齢者疑似体験・車いす体験	3・4	5名	
幡多年金事務所	R4. 9. 7	視覚障害者体験		9名	
	R5. 3. 7	手話学習		10名	
合 計				340名	

1.地域福祉の推進とボランティア活動の充実

⑧ゆずります・ゆずってくださ事業（共同募金事業サービス区分）

《職員兼務1名》

家庭などで眠っている貴重な資源について新たな活躍の場が見つかるように「情報の収集とその情報の公開」を社協だよりで行いました。「ゆずります登録カード」、「ゆずってくださ登録カード」に書いてもらった情報が一致した時に双方へ再確認したうえで物品を届けています。

物品によっては登録カードが増えるなど市民の方へかなり浸透しているように思います。また、物品を届けた際には非常に喜んで受け取ってくれています。

- ゆずります登録カード受取数 29枚
- ゆずってくださ登録カード受取数 55枚

番号	物品名	配達地区名	番号	物品名	配達地区名
1	ガーゼ寝巻	中村	18	スニーカー	中村
2	介護用紙パンツ他	中村	19	子供服	八東
3	窪川高校制服	下田	20	電動ウオーカー	八東
4	掃除機	中村	21	スニーカー	具同
5	ジグソーパズル	八東	22	フットマッサージ機	西土佐
6	ジグソーパズル	八東	23	七五用晴れ着一式	中村
7	おもちゃ	八東	24	ベビーサークル	東山
8	腰かけ便座	八東	25	エプソンプリンターインク	八東
9	スチール製犬小屋	具同	26	スニーカー	中村
10	長財布	中村	27	子供用自転車	具同
11	夏肌布団	中村	28	キャットフード	西土佐
12	夏肌布団	中村	29	キャノンプリンターインク	具同
13	夏布団カバ-	中村	30	エプソンプリンターインク	東山
14	夏肌布団	中村	31	エプソンプリンターインク	東山
15	アサヒ中ジョッキ-	中村	32	エプソンプリンターインク	中筋
16	尿とりパット	中村	33	エプソンプリンターインク	中筋
17	スニーカー	中村	34	ベビーベッド	中村

1. 地域福祉の推進とボランティア活動の充実

⑨ 地域福祉の推進（法人運営サービス区分他）

○福祉健康講座は、昨年度に引き続き映画上映会を総合福祉センターで開催しました。今回は「認知症」をテーマに45名の方が鑑賞されました。

○健康福祉地域推進事業では、6地区の委員会からの依頼を受け、介護予防のレクリエーションやゲーム、「介護保険」の講話等の学習会に協力しました。また、併せて社協会費の協力を頂きました。

○ボランティアセンターとしての取り組みは、昨年度同様に新型コロナウイルスの影響により全く取り組みができていません。

○ふれあい相談については、主に金銭に関わるの相談内容が多くありました。

○フードバンク事業は、寄付で協力してくれる方や利用される方の割合が前年度より高くなっています。

○新型コロナウイルスによる特例貸付件数は2件あり、生活福祉資金の申請はありません。

また、6月よりはじまった特例貸付免除申請については、12名の方の申請がありました。

○小口生活資金の貸付件数は4件あり、全員が生活保護受給決定までのつなぎの資金となっています。

* 社協会費（西土佐地区） 555口数 277,500円
 団体会費1件（新規）

* 社協会費をもとに、西土佐地域の住民を対象に貸出用としてマイク付き拡声器を購入しました。

・ ボランティア団体支援
 やすらぎの会、JAこだま会

事業名	内 容			場 所			回 数			延 べ 人 数			備 考
	事業名	内 容	場 所	回 数	延 べ 人 数	備 考							
福祉健康講座	福祉映画上映会	福祉健康講座	総合福祉センター	1日 2回	45名	11/18開催							
健康福祉地域推進事業他に協力	介護予防事業に協力	各地域の集会所他	9回	125名	6地区、老人クラブ1単老								
ボランティアセンター機能	話し相手 纏いもの カラオケ 読み聞かせ 合計	デイサービスセンター 特養かわせみ ケアハウス 西土佐小学校	- - - - -	- - - - -	- - - - -	新型コロナウイルス感染症の影響により未実施							
高齢者閉じこもり等予防支援	関係機関との情報交換及び対象者宅訪問			0件									
ふれあい相談	電話や来所による相談			13件									
訪問相談・支援	相談業務等に関連し訪問			13件									
フードバンク事業	募入れ 利用者			9件 5名									
生活福祉資金貸付	問合せ・相談等 福祉資金の貸付			75件 0件		主に償還に関すること							
新型コロナウイルス特例貸付（免除）	緊急小口資金	申請件数 申請金額		0件 0円		R3.9月末受付終了							
	総合支援資金	申請件数 申請金額		2件 900,000円		〃							
	緊急小口資金償還	免除申請 免除金額		12件 2,300,000円		〃							
	総合支援資金償還	初回免除申請 初回免除申請金額		9件 4,950,000円		〃							
女性活躍支援事業	相談等（生理用品）			1件									
小口生活資金貸付	生活資金の貸付（特別小口含）			4件									
日常生活自立支援事業	相談・支援 利用者			2件 0名									
成年後見事業	相談・支援 利用者			45日 1名									
車イス貸出	短期使用者に貸出			12件									

1. 地域福祉の推進とボランティア活動の充実

⑩ 法人運営（法人運営サービス区分）

西土佐支所にて実施した各団体事務と、関係機関との会議等の状況は以下のとおりです。

【団体事務】

西土佐地域老人クラブ連絡協議会(四万十市老人クラブ連合会)

- 監査(4/7)、会長会(4/19, 3/2)、ゲートボール大会(5/4, 6/29, 8/4, 10/20, 12/13, 2/5, 3/12)、春季ゲートボール大会5/24(教育委員会)
 - グラウンドゴルフグラウンド整備(11/10)、グラウンドゴルフ合同練習会(12/12)、自主研修学習会(1/31)
 - 《市老連》会長・副会長会(5/31, 7/12, 9/1, 11/4, 1/17, 3/2)、理事会(4/14)、定期総会(4/28)、若手・女性委員合同総会(9/30, 2/24)
 - ふれあい体操(4/26, 5/24, 6/28, 7/26, 9/27, 10/25, 11/15, 12/27, 1/24, 2/28)、日帰り研修旅行(6/30, 7/6)、絵手紙教室(7/11, 12/2)
 - 会員パワーアップ研修会西部会場(7/15)、体力測定(7/29)、輪投げ大会(9/16)、フロッカー体験教室(9/26)
 - グラウンドゴルフ大会(11/2)、ゲートボール大会(11/21)、ろうれんピック(11/17)、県老人クラブ大会(11/22)
 - 幡多地区芸能大会(11/24)、元気はつらつはちきん大会(12/8)、パワーアップ研修(3/17)
- 西土佐地区民生委員児童委員協議会
- 監査(4/11)、定例会(4/21, 6/14, 9/15, 10/27, 12/6, 3/9)、訪問サービス(6/14, 10/27, 3/9)、主任児童委員大会(5/30, 3/23)
 - 県民生委員大会(7/13) 幡多ブロック研修会(9/28)、全国大会(10/18~20)、中堅研修(10/31)、就学前児童保護者との顔合せ(11/14)
 - 県福祉大会(11/16)、新任(2年目)研修(11/21)、委嘱状伝達式(12/6)、四万十市連合会(12/8)、新任(1年目)研修(1/27)
 - 中堅フォローアップ研修(1/31)、法定民児協会長・副会長等研修会(2/3)、幡多ブロック連絡会(2/21)、三役会(2/21)

四万十市身体障害者連盟 総会(4/14)

日本赤十字社

災害等無く、活動無し

共同募金委員会

街頭募金(10/1, 3)、特別募金(10/25)、学校募金(小 12/19)

【関係機関との会議等】

- こだま会総会(4/24)、一般廃棄物処理に係る意見交換会(6/10)、社会を明るくする運動出発式(7/1)
- 西土佐地域ネットワーク会議(7/14, 10/7, 1/26) 幡多地域四者会(7/21, 10/20)、四万十市青少年育成会議総会(7/28)
- 四万十市成年後見制度利用促進協議会(10/20)、後川地区座談会(11/9)、健康づくりサポーター養成講座(11/11)
- 西土佐地域座談会(11/15)、こだま会30周年記念大会(2/18)、いちいの郷運営推進協議会(11/8, 3/14)

2.総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

①ふれあい相談センター事業（共同募金事業サービス区分）

《 会費収入 189,000円 共同募金配分金 195,000円 決算額 384,000円 》

一般相談	毎週 月～金曜日	午前8時30分～午後5時15分	(四万十市社会福祉センター 本所)
法律相談	月/2回 第1・3月曜日	午後1時30分～午後3時30分	(四万十市社会福祉センター 本所)
支所相談	毎週 月～金曜日	午前8時30分～午後5時15分	(四万十市総合福祉センター 支所)

一般相談については、対応職員を決めず来所や電話の相談を基本として、必要に応じて訪問による対応で実施していますが、数字だけ見ると昨年度同様非常に少なくなっています。新型コロナウイルスの影響により生活福祉資金特例貸付の相談対応が増えたことや、コミュニティソーシャルワーカーが窓口となって多くの相談を受けていることなど要因は様々ですが事務所対応は少なくなりました。また、法律相談については1回につき上限4名として毎月2回実施していますが、相談者が多く今後も実施していきま

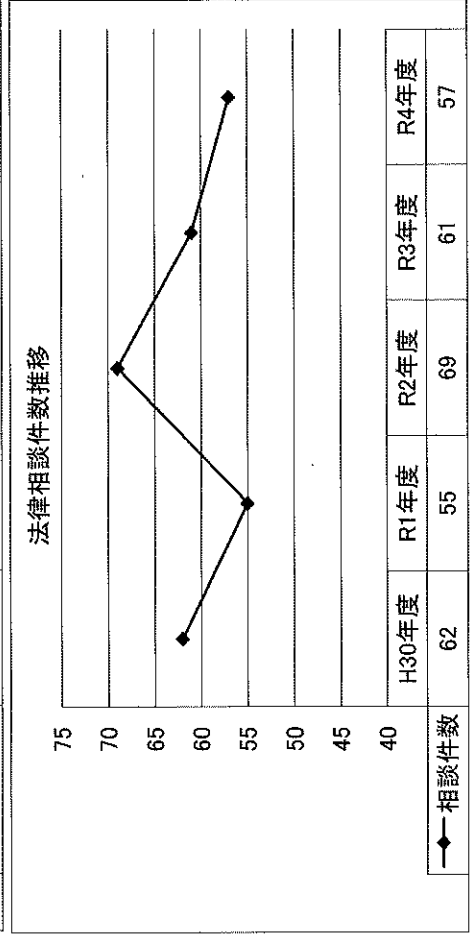
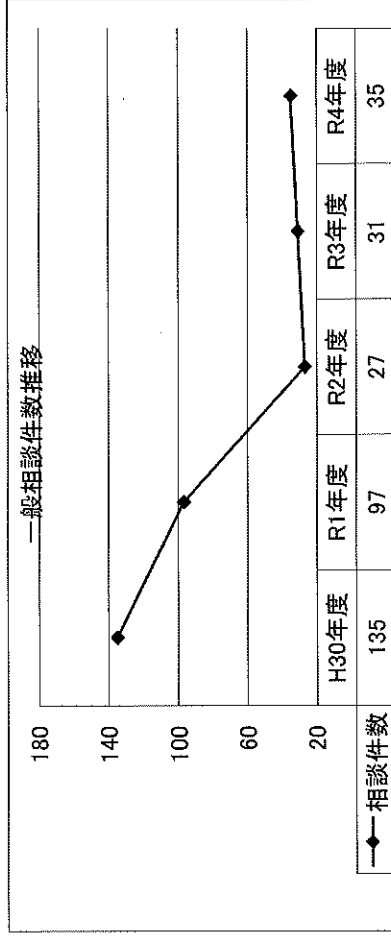
H30年度		R1年度		R2年度				
1	生活問題	34	1	家計・金銭問題	43	1	家計・金銭問題	7
2	金銭問題	29	2	生活問題	22	2	家族関係・離婚・結婚問題	5
3	職業・生業問題	11	3	家族関係・離婚・結婚問題	12	3	職業・仕事問題	4
3	介護保険・老人福祉問題	11						

R3年度		R4年度			
1	生活問題	11	1	家計・金銭問題	11
2	家計・金銭問題	9	2	生活問題	5
3	介護保険・高齢者福祉問題	5	3	年金・財産問題	4

※1 一般相談については、職員が対応

※2 法律相談については、弁護士が対応

中村ひまわり基金法律事務所・法テラス中村法律事務所・四万十法律事務所の弁護士が輪番対応



2.総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

②福祉サービス利用援助事業 (福祉サービス利用援助事業サービス区分)

〈職員2名(内支所1名)〉

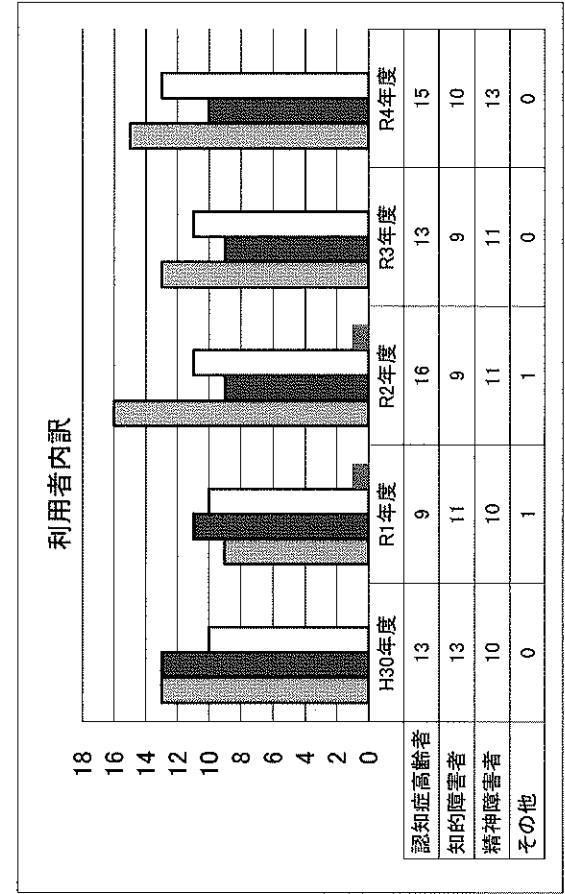
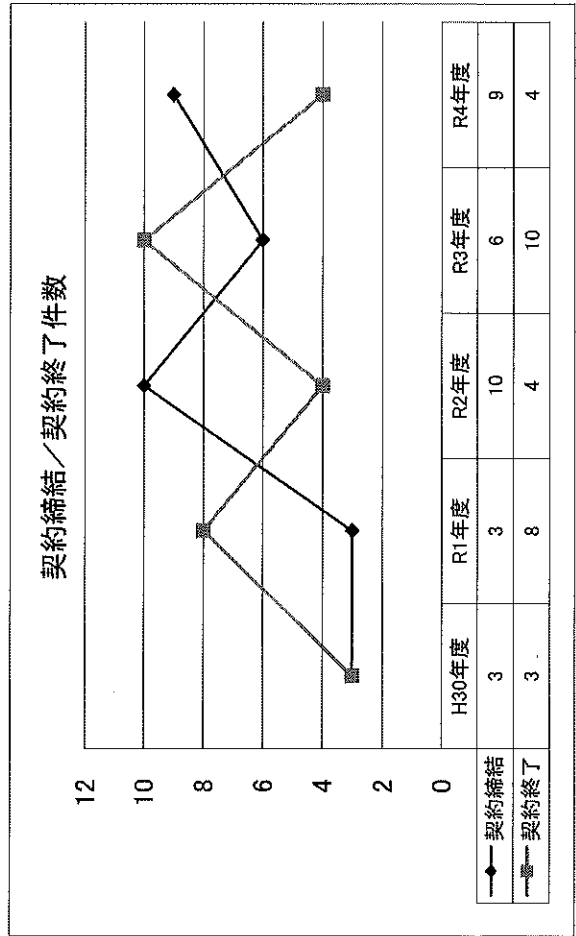
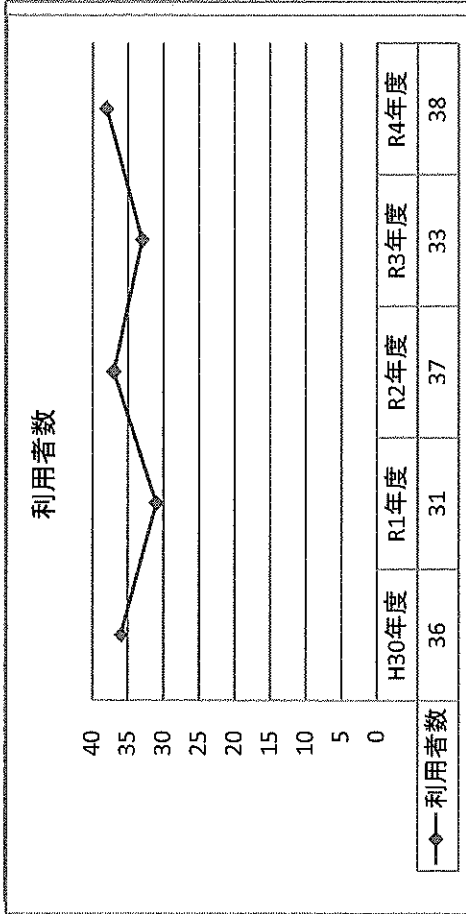
《 県社協受託金 3,660,000円 利用料 209,250円 後見報酬 2,000,400円 市補助金 1,182,000円 決算額 7,051,650円 》

認知症や知的障害、精神障害等により判断能力が不十分な方に対し、福祉サービス利用援助に合わせて日常的な金銭管理を行い、地域で自立し、安定した生活が送れるように利用者の支援を行いました。

R4年度の新規契約者の内訳は、認知症高齢者6名、知的障害者1名、精神障害者2名でした。また、契約終了者については、死亡2名、後見人への移行が2名でした。

死亡2名の預かり物品に関しては、相続人に受け渡しが完了しています。

- ・相談支援件数他 2,062件
- ・新規契約件数 9名
- ・契約終了者数 4名
- ・年度末利用者数 38名 (内書類預りのみ利用者4名)



2.総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

③法人後見事業（福祉サービス利用援助事業サービス区分）

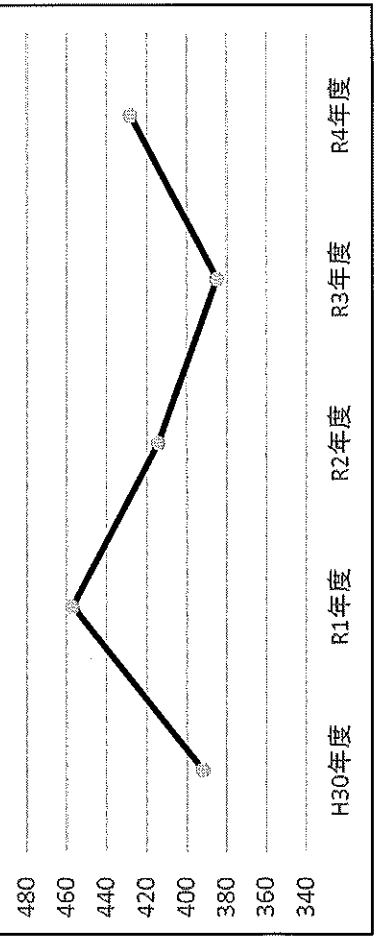
《後見報酬収入 2,000,400円》（福祉サービス利用援助事業再掲）
 〈職員 5～8名兼務〉

認知症・知的障害・精神障害等、意思決定が困難な人の判断能力を補うため、成年後見人、保佐人又は補助人になることにより、その人の財産管理や身上監護を行い、その人の権利を擁護することを目的に支援を行っています。
 令和4年度は職員の退職により4名の担当者交代が有りましたが、支援が滞ることなく継続できました。
 課題として、現在受任依頼があっても、受け入れが困難な状況になっていきます。

- ・新規受任者数 1名（83歳 女性 認知症 入院中）
- ・契約終了者数 1名（77歳 女性 知的障害）
- ・年度末受任者数 10名

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
問合せ件数	9	5	15	12	5
支援日数	392	457	414	385	428
新規契約者数	3	1	2	2	1
契約終了者数	0	1	1	2	1
年度末受任者数	9	9	10	10	10

支援日数



未来のあんしんサポート事業

（福祉サービス利用援助事業サービス区分）
 〈職員 4名兼務〉

近くに頼れる親族のいない高齢者が、住み慣れた地域で安心して生活を送れるようサポートすることを目的とした事業です。日頃の見守りや入院・入所時の支援、亡くなった後の手続きなど、老後に抱える様々な不安に寄り添います。
 対象者は、65歳以上の単身世帯で支援可能な親族がいない方。四万十市に住みながら居住している方。契約内容を十分理解し利用を希望する方。親族間で紛争性のない方。生活保護世帯でない方。としており、未来のあんしんサポート事業審査会にて承認を得た後に契約締結となります。
 今年度8月より開始した事業ですが、5名から相談を受け、うち11名が申請につながりました。

	R4年度
相談件数	19
実相談者数	5
申請者数	1
審査案件数	0
契約締結者数	0
契約終了者数	0
実利用者数	0
支援回数	0

2.総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

④小口生活資金貸付事業（貸付事業サービス区分）

低所得者等に対し、短期の生活資金貸付と相談援助を行うことにより、生活の安定を図ることができるよう努めました。
令和元年度に小口生活資金貸付事業の要綱を一部改正し、生活保護世帯又は保護申請世帯のつなぎ資金として貸付を行うようとした為、生活保護世帯からの申込みが大幅に増加しており、福祉事務所と連携して対応しました。

※ 資産の状況（令和5年3月31日） ※令和4年度 相談者数 81名
・預金残高 3,615,589円

※ 小口貸付等の状況 ※ 特別小口貸付等の状況
・相談件数 218件 0件
・貸付額 1,508,000円(30件) 0円(0件)
・貸付残額 546,365円(延利含む) 0円
・償還終了件数 21件 0件

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	前年度比 R4年-R3年
貸付件数	4	9	33	30	33	3
貸付額	330,000	306,000	1,776,000	1,331,000	1,508,000	177,000

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	前年度比 R4年-R3年
償還完了件数	4	8	24	22	29	7
償還額	239,512	362,575	1,421,950	1,433,170	1,203,000	-230,170
内延滞利子	1,057	130	0	0	0	0

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	前年度比 R4年-R3年
年度末貸付件数	3	3	13	21	16	-5
貸付残額（元金）①	201,545	145,000	479,150	376,980	533,880	156,900
延滞利子 ②	0	0	0	0	5,884	5,884
年度末残額 ①+②	201,545	145,000	479,150	376,980	539,764	162,784

生活福祉資金貸付事業（貸付事業サービス区分）

《 県社協受託金 5,454,000円 うち特例貸付事務費 4,601,000円 》

低所得者等に対して、資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより経済的自立、生活意欲の助長促進並びに社会参加の促進を図り、安定した生活が送れるようにすることを目的としています。

【令和4年度貸付等の状況】 ※支所含む
* 問合せ・相談件数 155件
* 申請件数 3件
* 貸付件数 2件 (合計1,505,000円)

(内訳)
教育支援資金 1件 (465,000円)
福祉費 1件 (1,040,000円)

新型コロナウイルス感染症の影響による生活福祉資金（特例貸付）令和2年3月25日より始まった特例貸付は令和4年9月30日で終了しました。新型コロナウイルスの影響で収入が減少した世帯に対して、緊急小口資金は最大20万円、総合支援資金は最大180万円の貸付を行いました。

2年6ヶ月の貸付期間は終了しましたが、今後は免除申請や少額申請、償還事務など長期間続いています。変わらず問い合わせも多く生活困窮事業所など関係機関と連携して支援を行います。

【特例貸付】（支所含む）

* 申請者数（延べ）
緊急小口資金 478名 (87,400,000円)
総合支援資金 829名 (437,800,000円)
合計 1,307名 (525,200,000円)

* 申請者数（実人数）465名

【免除申請実人数】219名

【免除申請額（緊急・総合初回）】141,200,000円

2.総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

⑤フードバンク事業（貸付事業サービズ区分）

フードバンク事業では、生活に困窮し日々食の確保に困る人たちを対象に、住民からの寄付や関係機関から寄せられる食料品を無償で提供しており、市内の社会福祉法人や福祉事務所でも食料品の受け入れ窓口として協力をいただいています。

地域住民から寄せられる生活困窮者等の相談について、当事業と合わせて必要な場合は他の社協事業や生活困窮者自立支援事業所、また福祉事務所と連携し潜在化しがちな生活困窮者のニーズへ早期に対応できる体制を取っています。

また、今年度より㈱フジ・リテイリング様が2店舗において、買い物をしたお客さんがそのまま寄付できるフードドライブコーナーを設け、定期的に物品を寄付していただき、133.7kgの善意が生活困窮者等への食料として届きました。

フードバンク寄付 実績数

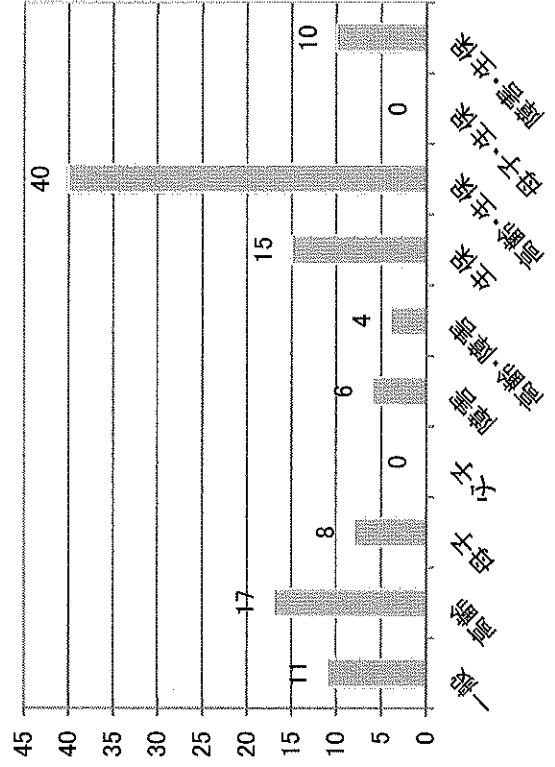
受付先	R1年度		R2年度		R3年度		R4年度	
	延べ件数	重量換算	延べ件数	重量換算	延べ件数	重量換算	延べ件数	重量換算
社協	36件	696.30 kg	71件	521.15 kg	64件	739.50 kg	64件	1,181.20 kg
四社連			18件	141.00 kg	11件	776.40 kg	6件	157.00 kg
FDキャンペーン	9件	108.80 kg	29件	209.80 kg	23件	639.10 kg	12件	354.50 kg
合計	45件	805.10 kg	118件	871.95 kg	98件	2,155.00 kg	82件	1,692.70 kg

フードバンク提供 実績数

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	個人	81件	77件	87件
施設	件	0件	13件	4件
計(延べ)	93件	81件	77件	115件

【フードバンク提供(世帯別)】

世帯	件数
一般(困窮)	11件
高年齢	17件
母子	8件
父子	件
障害	6件
ホームレス	件
高年齢・障害	4件
生保	15件
高齢・生保	40件
母子・生保	件
障害・生保	10件
(生保)計	65件
延べ件数	111件



2.総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

⑥福祉人材バンク事業（福祉人材サービス区分）〈契約1名兼務〉

《 県社協受託金 2,240,723円 その他の収入 7,025円 決算額 2,247,748円 》

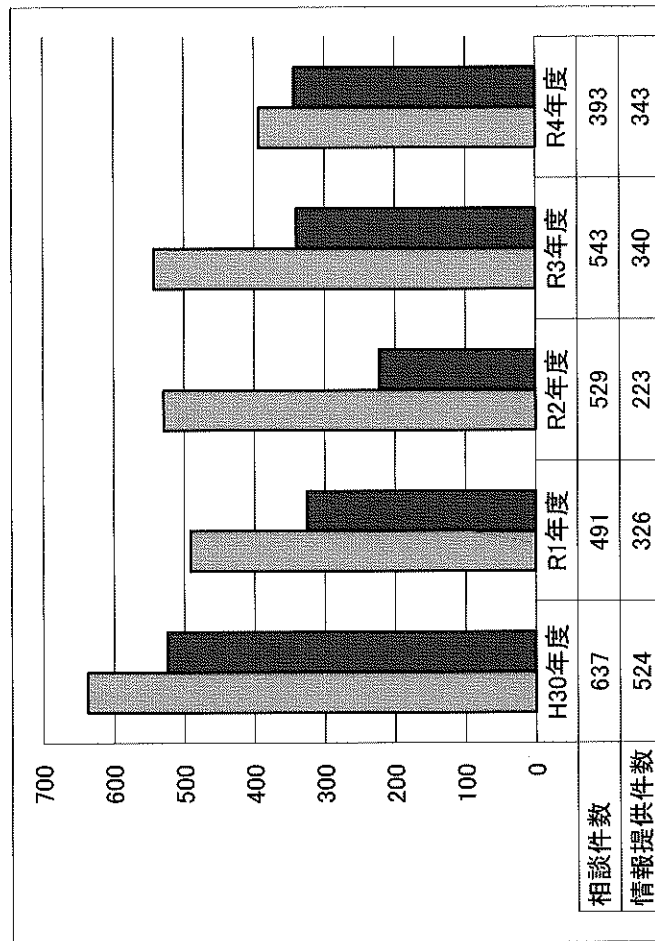
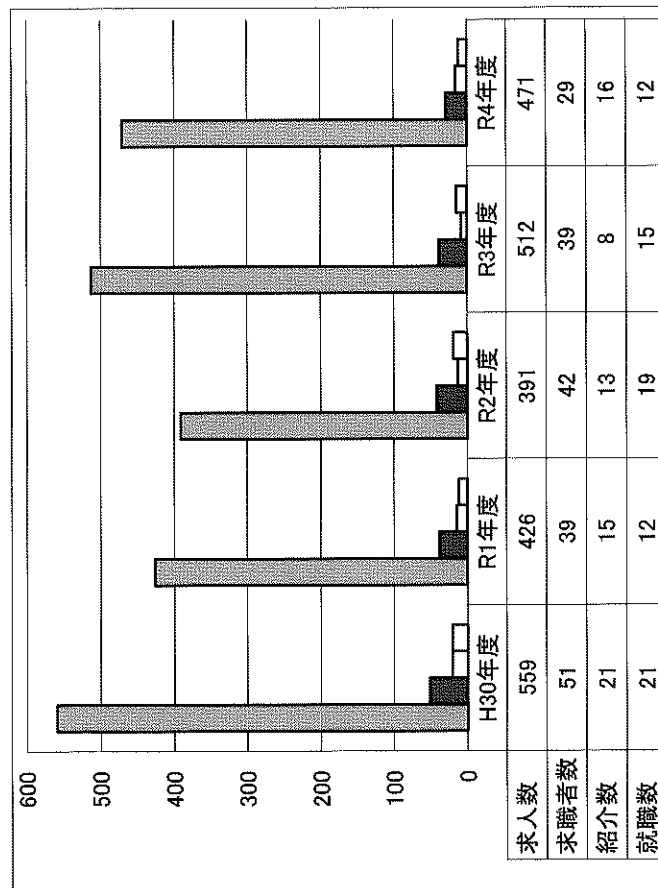
無料職業紹介事業では幡多6市町村と四万十町を管轄区域として、求職登録者が希望する求人に応じて福祉・介護の職場へとつなぎました。平日は常時窓口での相談を行い、広報誌での周知、関係機関との連携により登録者の確保と求人情報の提供を行いました。また、ハローワーク主催のかいご面接・相談会や、高知県福祉人材センター主催のふくし就職フェアへの応援も行いました。また窓口相談等で資格取得方法や講習先情報等の提供も行いました。

福祉人材養成事業としては、介護支援専門員模擬試験や、介護福祉士模擬試験・受験対策講座を開催しました。また窓口相談等で資格取得方法や講習先情報等の提供も行いました。変わらず福祉の人材確保は喫緊の課題である為、今後は更なる福祉・介護の新規求職登録者の確保と、潜在有資格者の掘り起こしに取り組み、併せて高知県福祉人材センターと連携し、様々な角度から介護職のPRを行っていきます。

【福祉人材養成事業】介護支援専門員模擬試験…受験者5名、介護福祉士模擬試験…受験者7名、受験対策講座…参加者5名

【啓発広報事業】社協だより掲載…5回

【運営委員会開催】令和5年3月8日 運営委員8名参加



2.総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

⑦福祉・介護人材マッチング機能強化事業（福祉人材バンク事業サービズ区分）〈職員兼務1名・契約1名〉

《 県社協受託金 3,541,000円 市補助金 2,211,818円 サービズ区分間繰入金収入 500,000円 県受託金 2,282,639円 決算額 8,535,457円 》

幡多福祉人材バンクにおけるマッチング機能の強化及び施設・事業所における職員の定着促進を目的として、対象者に応じた細やかなマッチングの実施や就職後のフォローアップ、働きやすい職場づくりへの支援等を行ってまいりましたが、新型コロナウイルスの影響で思うような事業所訪問ができませんでした。

ハローワークを会場に福祉・介護セミナーについて開催していますが、参加者数は増加したものの就職に結びつくことなく人材確保が非常に難しい状況が続いています。

福祉・介護分野の人材不足が常態化している中、人材確保について検討していくため四万十市社会福祉法人連絡会を母体として小規模法人ネットワーク化構築事業を今年度より実施しています。福祉職場の人材を確保するためのヒントを得るためセミナーを開催するほか、四万十市の人材確保・定着の状況を把握するためのアンケート調査を行うなど、手探りではありませんが人材確保に向けて検討する内容を整えています。

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	備考
延事業所訪問件数(件)	50	23	7	33	24	
福祉・介護セミナー開催(回)	12	10	7	12	11	
延参加者(人)	30	52	14	47	57	
延福祉職場体験者(人)	5	5	4	0	0	

【小規模法人ネットワーク化構築事業】

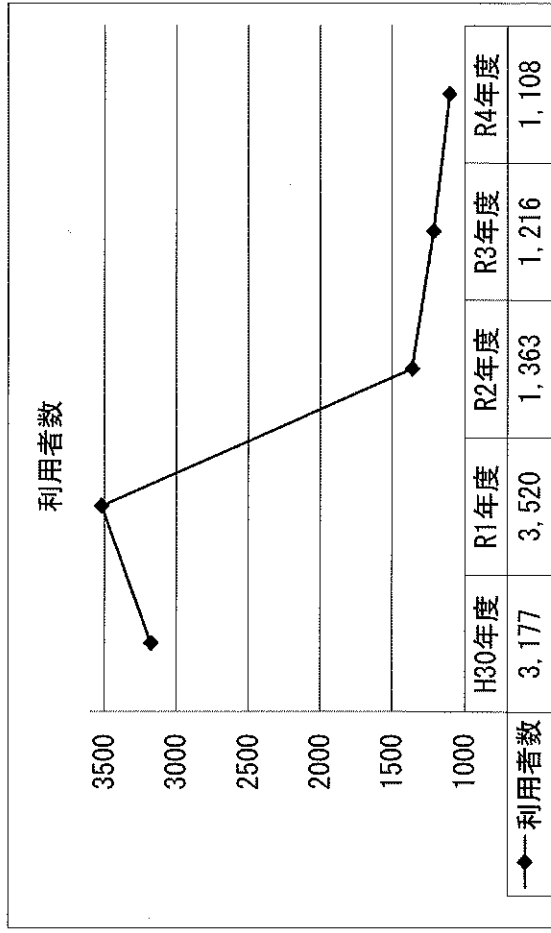
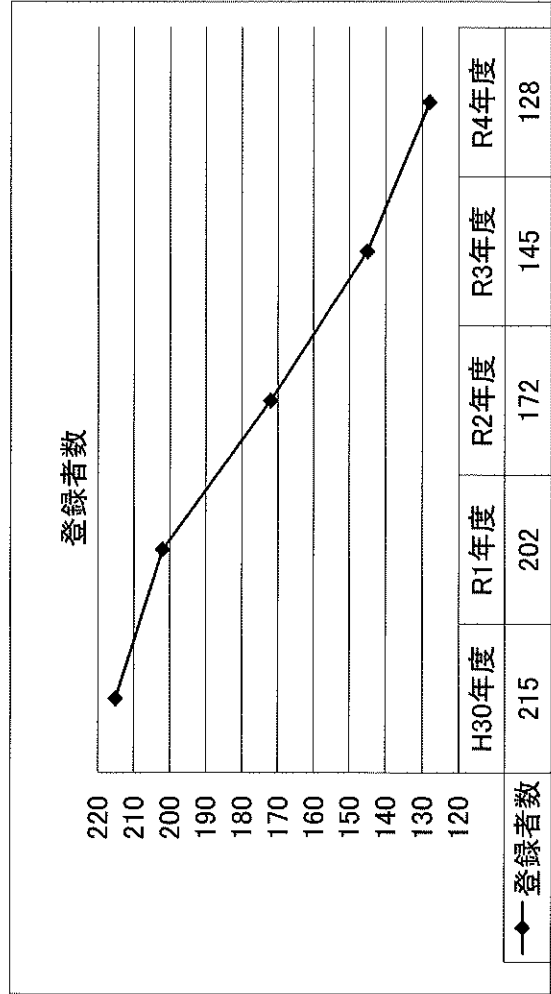
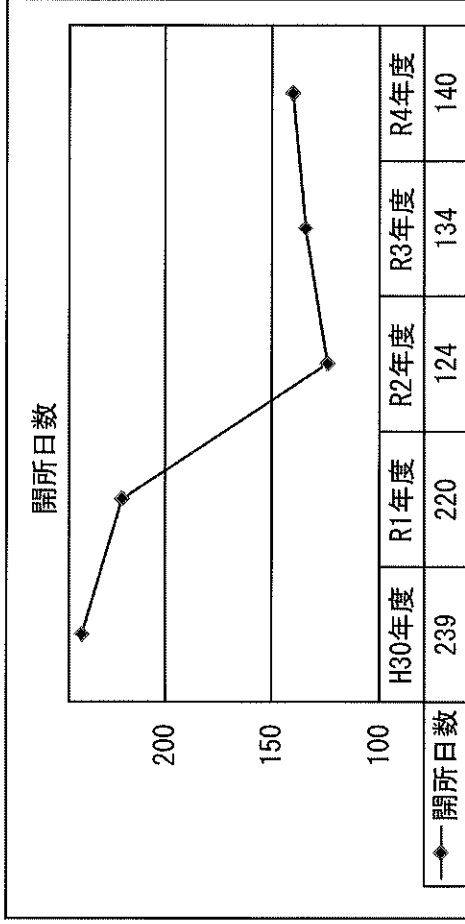
- ・福祉職場の人材確保セミナー（第1回）9月22日 参加者23名（第2回）2月7日 参加者18名
- ・福祉職場の人材確保・定着に関するアンケート 対象法人数：43法人(91事業所) 回収数：27法人(60事業所)

3.在宅福祉サービスの充実

①高齢者はつらつサービス事業（はつらつデザインサービス事業）〈職員1名 再雇用職員1名 パート1名〉

《市受託金 3,434,800円 市補助金 3,450,000円 利用料 886,400円 サービス区分間繰入金収入 650,000円 決算額 8,421,200円》

介護保険非該当の利用者（65歳以上の高齢者）に対し、健康チェックや創作活動、レクリエーション、日常必需品の買い出しなどのサービスを提供し、高齢者が楽しく生きがいをもてるよう事業を実施しました。令和5年3月31日現在で、65歳以上79歳以下が8%（11名）、80歳以上89歳以下が67%（86名）、90歳以上が25%（31名）になり、利用者の平均年齢は86.1歳になっています。コロナの影響が少なくなり、利用者は減ってきていますが、利用者全体の年齢が高くなってきており、体調不良等により欠席する人が多くいるため、登録者、利用者は年々減少しております。広報誌への掲載や関連事業から利用に繋いで、新規登録者もいますが少ない状況です。コロナの影響で学校等の交流もまだ再開されていません。



3.在宅福祉サービスの充実

②通所型サービスC事業 (はつらっデザイナーサービス区分)

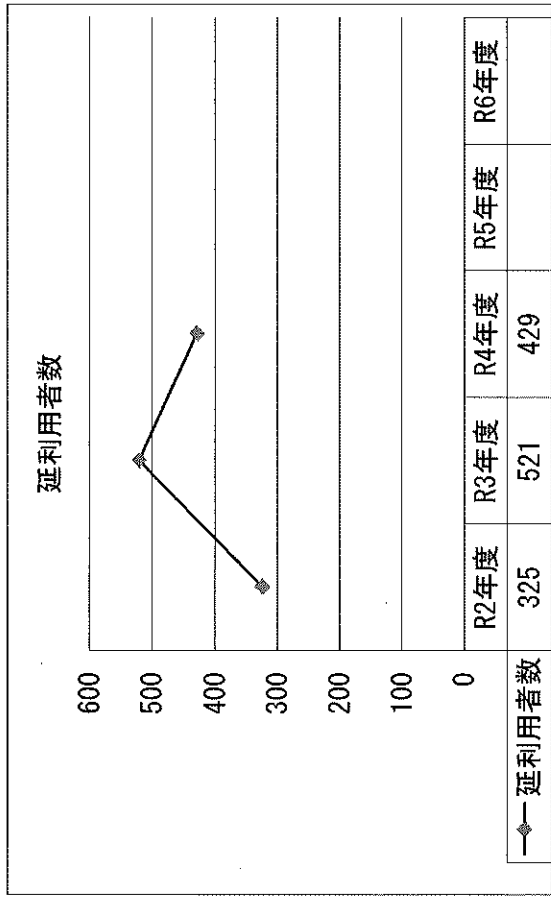
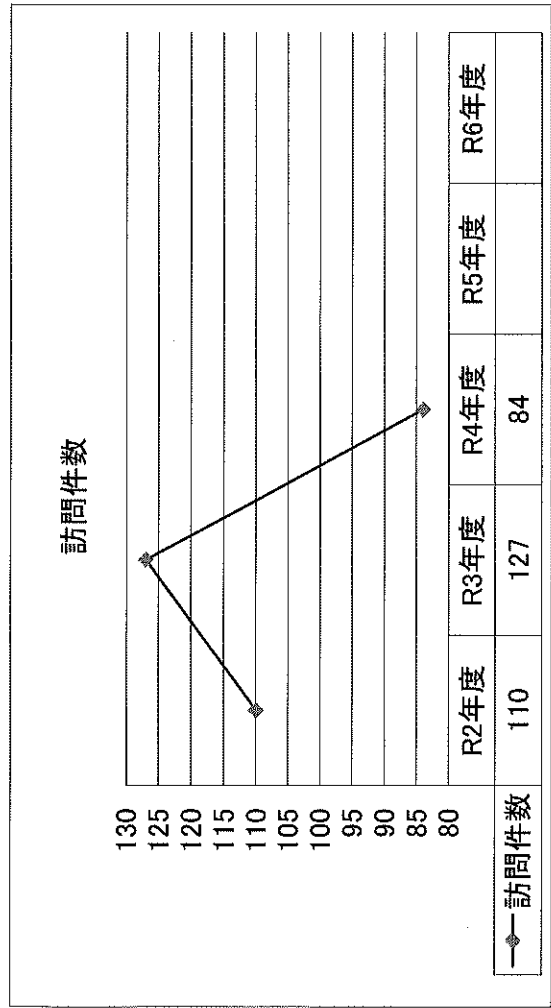
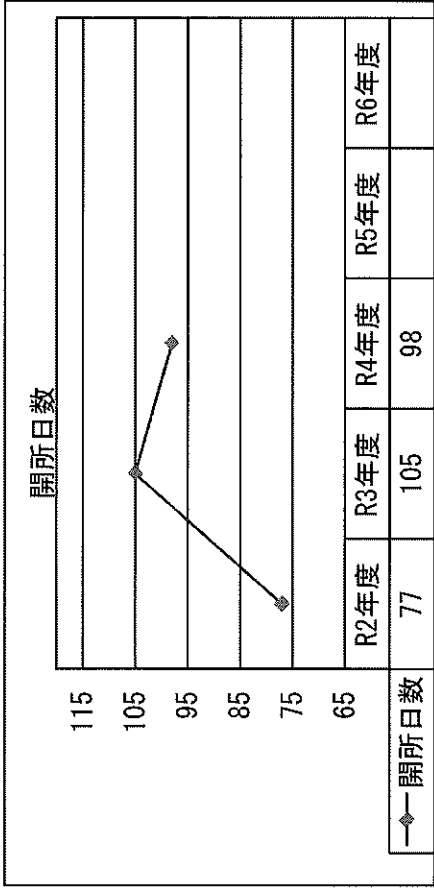
〈他業務と兼務 職員2名 再雇用1名〉

《 市受託金 6,648,009円 利用料 128,700円 決算額 6,776,709円 》

フレイル状態にある方に対し、通所による運動機能向上のプログラムの実施や訪問を3ヶ月間集中的に行い、可能な限り自立した生活ができるように支援してまいりました。卒業後も利用者が再び家庭や地域とつながりを持ち続ける事ができるようモニタリングも実施していますが、利用者に生活機能等の維持が一定みられている事から訪問件数は減って来まし

た。今後も利用者の活動量の多い生活や社会参加の促進の一助となるよう取り組んでまいります。

・利用者実数 19名



3.在宅福祉サービスの充実

③まちなかサロン（社会福祉事業サービス区分）

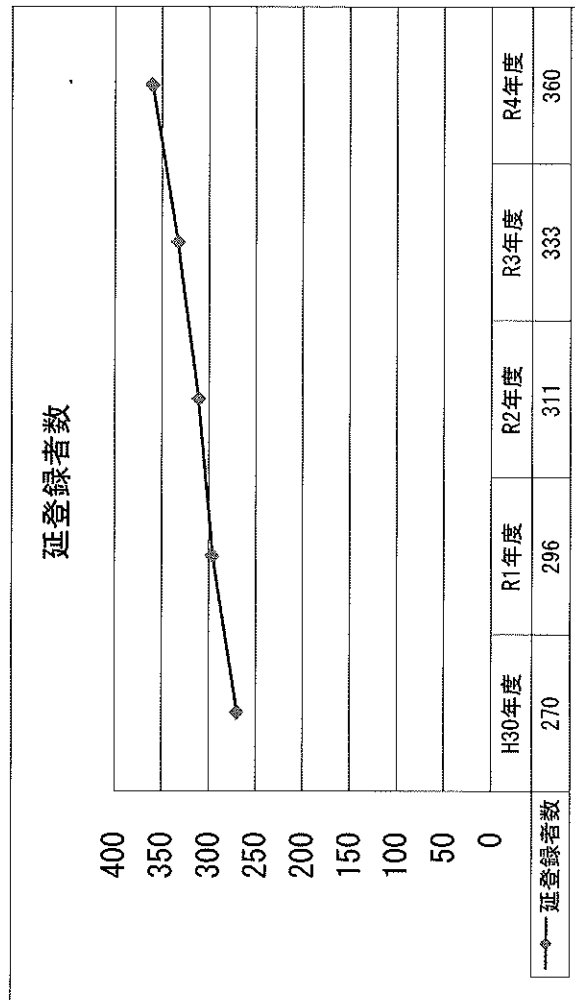
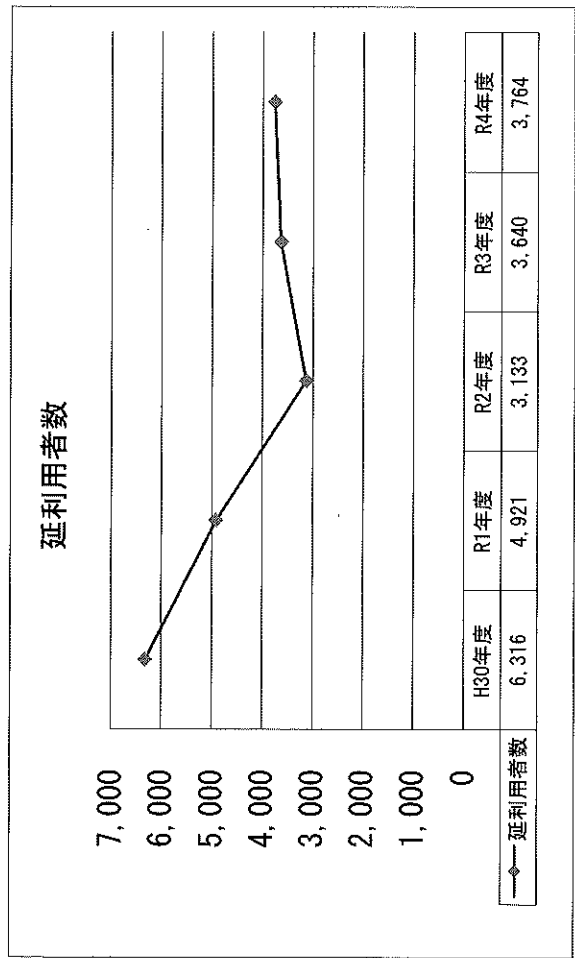
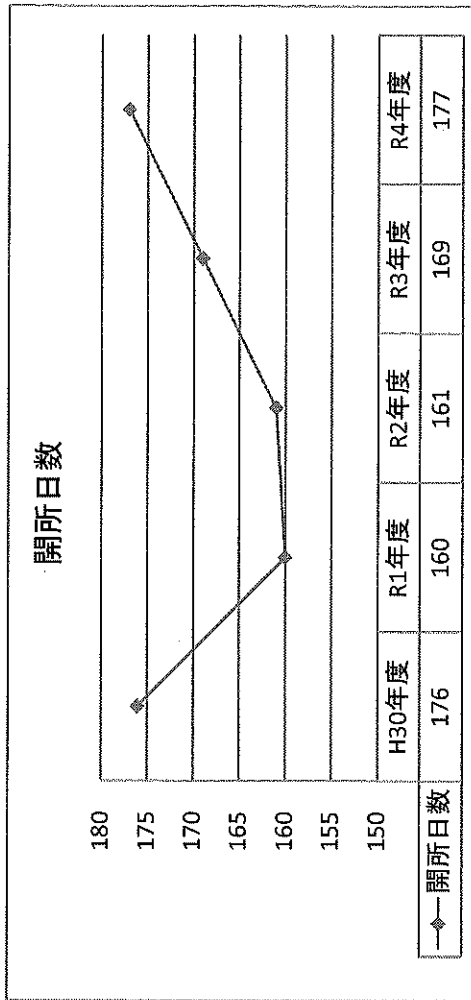
〈他業務と兼務 職員1名 パート職員4名〉

《 市受託金 3,119,655円 利用料収入 361,200円 決算額 3,480,855円 》

65歳以上の高齢者の方を対象に、自主的な介護予防、生きがいづくりの推進を目的に、いつでも・気軽に・誰もが・自由に出入りできる集いの場を提供しております。

まちなかサロンでは、コロナ禍の中、感染症防止の為の環境調整に注意しながら、参加者の体確認等を行い実施しています。介護予防体操を中心に、利用者の希望を取り入れカラオケ、卓球等の他、うたごえサロン・俳句会、輪投げ交流会、高知赤十字病院の健康ミニ講座などのイベントも感染予防に気をつけながら開催しました。

新規利用者は、今年度は広報等や口コミ効果もあり、年間をとおして毎月数名の利用者登録がありました。次年度も引き続き、広報等やPR活動を行う予定です。



3.在宅福祉サービスの充実

④訪問入浴事業（介護保険事業サービス区分）

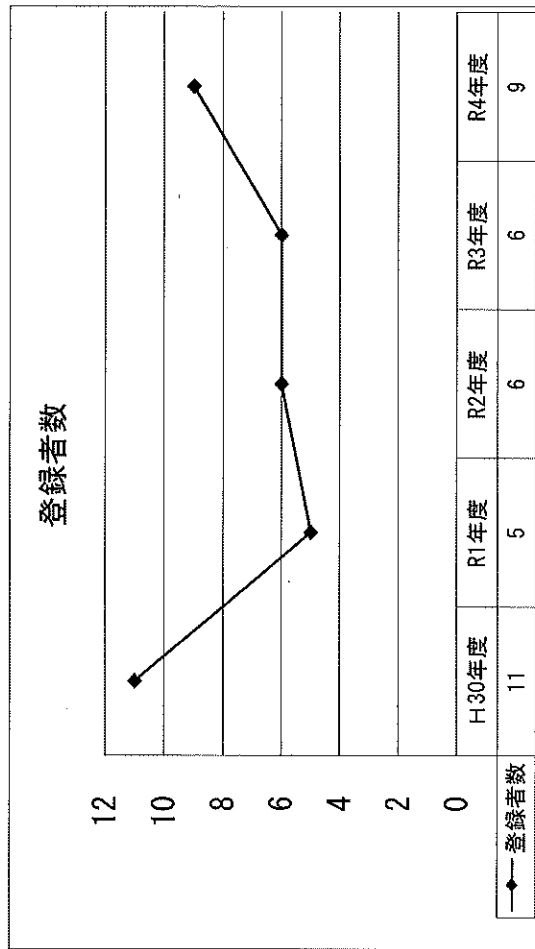
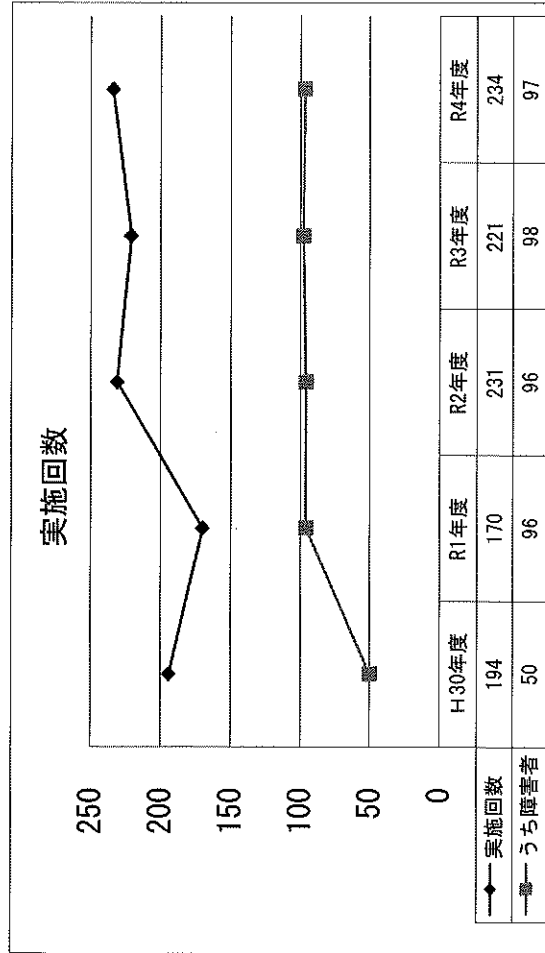
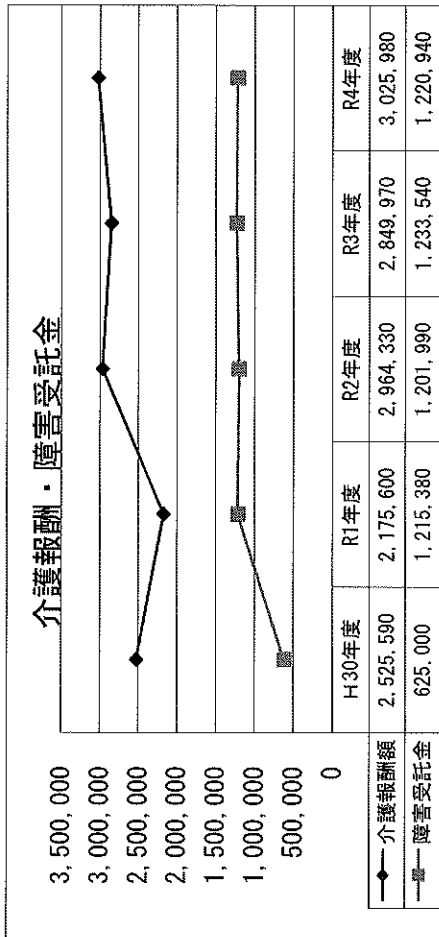
《介護保険事業収入 3,025,980円 市補助金 1,634,000円 身体障害者事業受託金収入 1,220,940円 助成金 100,000円 決算額 5,980,920円》

在宅で寝たきりの方等に対し、訪問入浴サービスを提供しています。利用者だけでなく、介護されている家族へのメンタル面での配慮等、介護負担を軽減するようなコミュニケーション等を行い、安心・安全を心がけて週2回（火・金曜日）サービスを提供しています。介護保険では、施設入所や入院を含め、終末ケアの方も多く増減があります。昨年度に比べ微増しております。障害福祉サービスの利用は定着し、安定してサービスを提供しております。

- ・介護保険サービス実利用者実数 3名
- ・障害福祉サービス 1名

〈職員1名兼務 パート2名〉

《介護報酬・障害受託金



3.在宅福祉サービスの充実

⑤障害者支援センター事業（障害福祉事業サービス区分）

〈職員1名〉

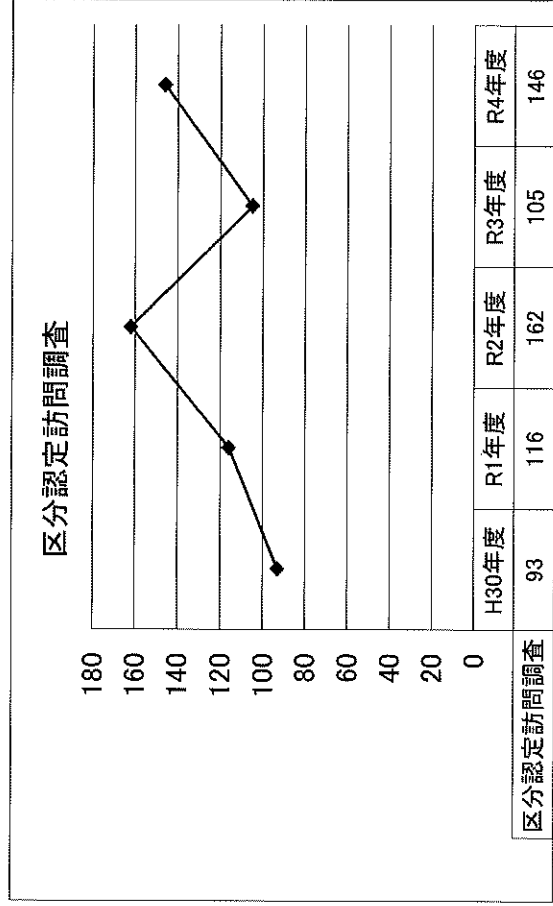
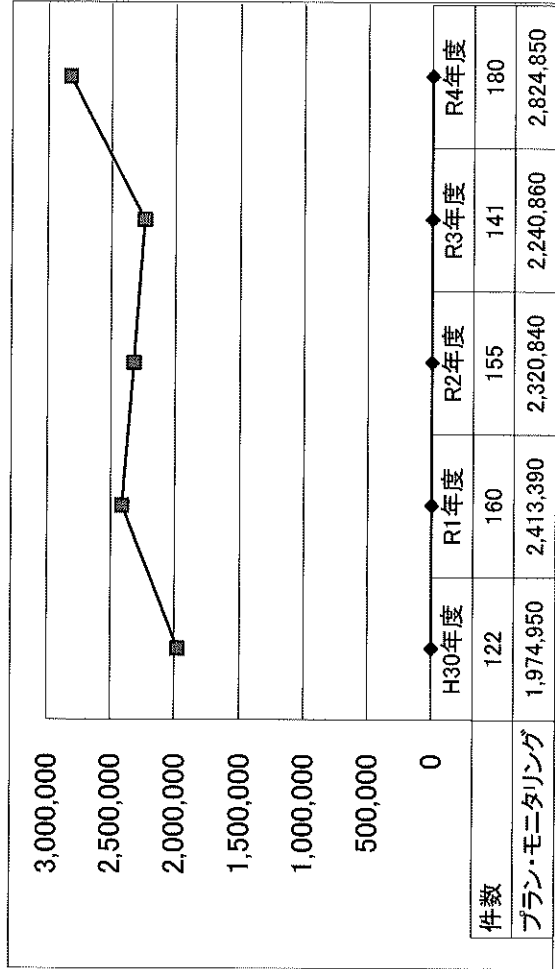
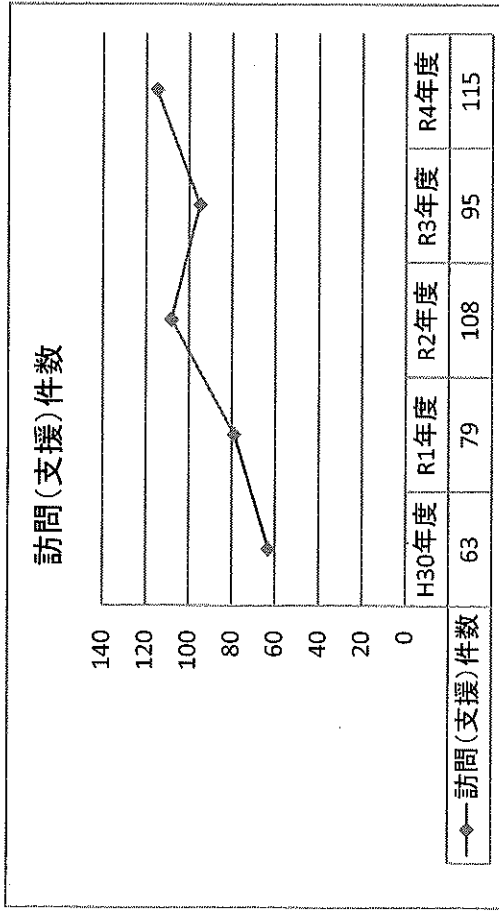
《 市受託金 3,890,607円 障害支援区分認定調査 803,000円 サービス計画報酬 2,826,810円 決算額 7,520,417円 》

支援センター業務として、電話や来訪、訪問等で身体、知的、精神障害者、又はその家族からの生活相談に応じ、申請の代行や関係機関につなぐ等の連絡調整、支援困難ケースにおいては、関係機関と協力して同行等の直接的支援を行なっております。また、四万十市から委託を受けて障害支援区分認定調査を依頼しております。

相談支援事業所として、障害福祉サービスを利用するために必要なサービス利用計画の作成や調整、定期的なモニタリング（計画の見直し）等を行っております。

業務の実施について、コロナ感染症の影響で面会制限や電話での聞き取り等で行うことになりましたが、相談者や認定調査依頼は多くあり、例年通りの件数を行いました。

- ・令和4年度相談支援事業所新規契約者 15名
- ・サービス利用終了・休止 10名
- ・令和4年度3月末実質利用者 70名



4.法人運営と地域福祉計画の推進

①四万十市社会福祉法人連絡会（四社連）の状況（地域福祉活動サービスマス区分）

H28年改正社会福祉法において、社会福祉法人の公益性・非営利性を踏まえ、法人の本旨から導かれる本来の役割を明確にするため、「地域における公益的な取組」の実施に関する責務規定が創設されました。四万十市においても社協が事務局となり、四万十市社会福祉法人連絡会（四社連）を設置し、定期的な連絡会により公益的な取組みを推進しています。

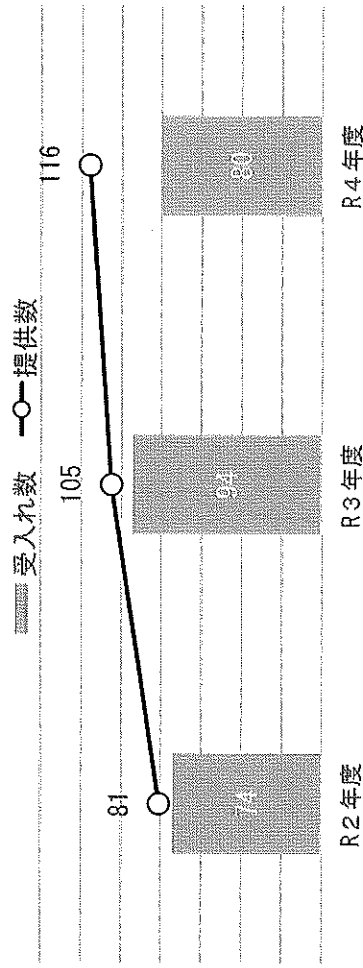
R4年度は、連絡会を4回開催し、公益的な取組みについての情報共有をはじめ、福祉職場の人材確保に関する調査等を行いました。R5年度は、法人間連携（福祉介護・共同送迎サービス「ゴイッショ」）の導入について調査・検討を行っていく方向となっています。公益的な取組みでは、移動販売業者が入っていない八東地域（初崎地区・名鹿地区）を対象とした買い物ツアーを10回実施し、延べ32名の方に参加いただきました。令和5年2月からフジ移動スーパーおまかせ君が八東地域にも入ることになっており、今年度をもって当該地区を対象とした買い物支援は休止となっています。また、各法人や市役所でもフードバンクの受入れが定着しており、食糧支援も充実してきています。今後、各法人の有する設備や専門性を活かした公益的な取組みを推進してきます。

買い物支援（対象：初崎地区・名鹿地区）

番号	年	月	日	参加者数
1	4	6	11	3名参加
2	4	7	9	5名参加
3	4	8	13	2名参加
4	4	9	10	3名参加
5	4	10	8	4名参加
6	4	11	12	3名参加
7	4	12	10	3名参加
8	5	1	14	3名参加
9	5	2	11	3名参加
10	5	3	11	3名参加

延べ32名

フードバンクの受入れ及び提供数の推移



4.法人運営と地域福祉計画の推進

②第3期四万十市地域福祉計画の進捗状況等（地域福祉活動サービズ区分）

R2年4月に策定した四万十市地域福祉計画を着実に進めていくため、市内を12圏域に分けた地域座談会を設置しています。R4年度は下記の表のとおり座談会関連の取り組みを行っています。

R4年度も新型コロナウイルス感染症の影響により座談会の中止や延期があり、予定通り開催できていませんが、それぞれの圏域で少しずつ活動が生まれています。引き続き、地域座談会の取り組みを通して、地域の実態に即した多様な小地域福祉活動（支え合い活動やふれあいの機会づくり等）の創出を推進していきます。

圏域	座談会	関連会議	企画	備考
中村	3回	3回	14回	おはポラ13回 3/25(土)おはポラ標語コンテスト贈呈式
下田	1回	2回	0回	5/12(土)下田地区わなげ交流大会開催予定
東山	1回	1回	0回	8/19(金)に予定していた東山地区夏休み子ども教室は、新型コロナウイルスの影響により中止
具同	3回	7回	2回	8/12(金)夏休み具同こどもひろば 1/6(金)冬休み具同こどもひろば
東中筋	2回	3回	1回	3/11(土)東中筋地域わなげ交流大会
後川	1回	0回	0回	※新型コロナウイルスの影響により2回座談会が中止
八束	1回	0回	0回	
西富山・藤岡	2回	1回	1回	3/26(土)西富山・藤岡地域2023地区対抗わなげ交流大会
中筋	2回	2回	0回	中筋地域交流館友の会組織化
大川筋	2回	1回	1回	3/27(月)大川筋地域花見とわなげ交流大会
東富山	0回	0回	0回	※新型コロナウイルスの影響により2回座談会が中止
西土佐	1回	0回	0回	※新型コロナウイルスの影響により4回座談会が中止
計	19回	20回	19回	

4.法人運営と地域福祉計画の推進

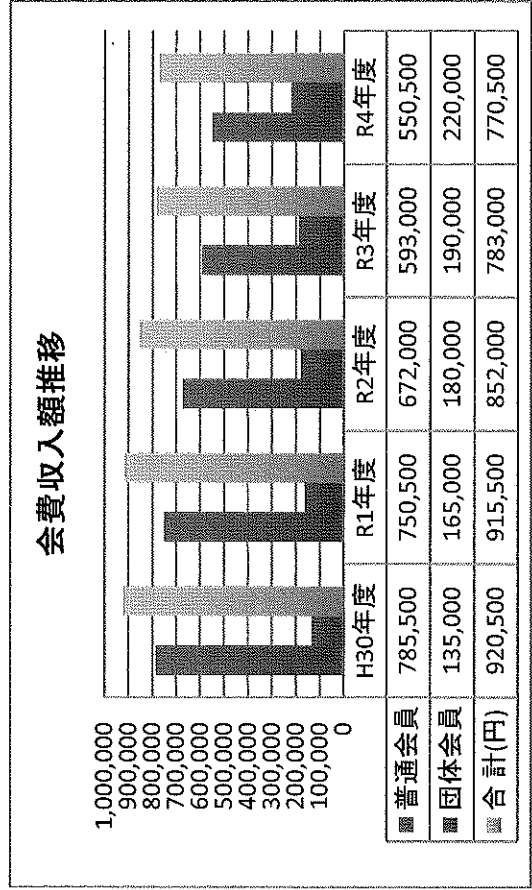
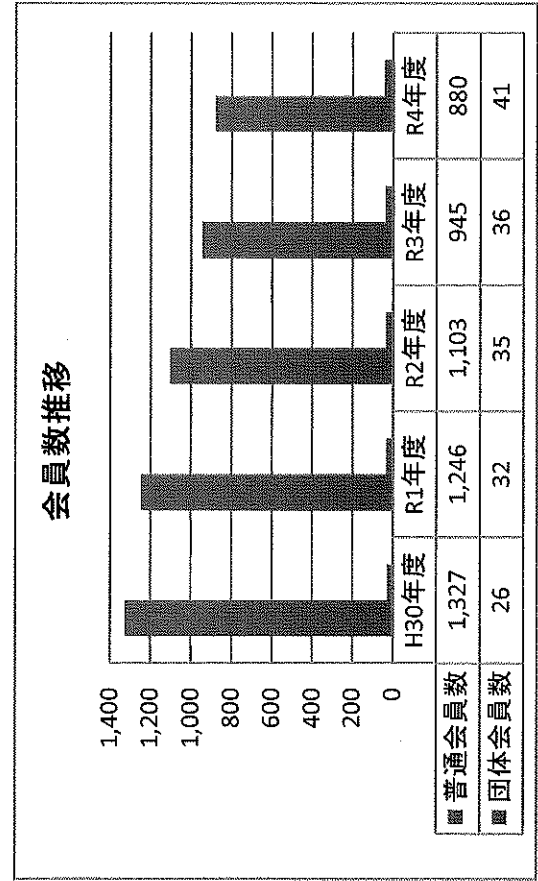
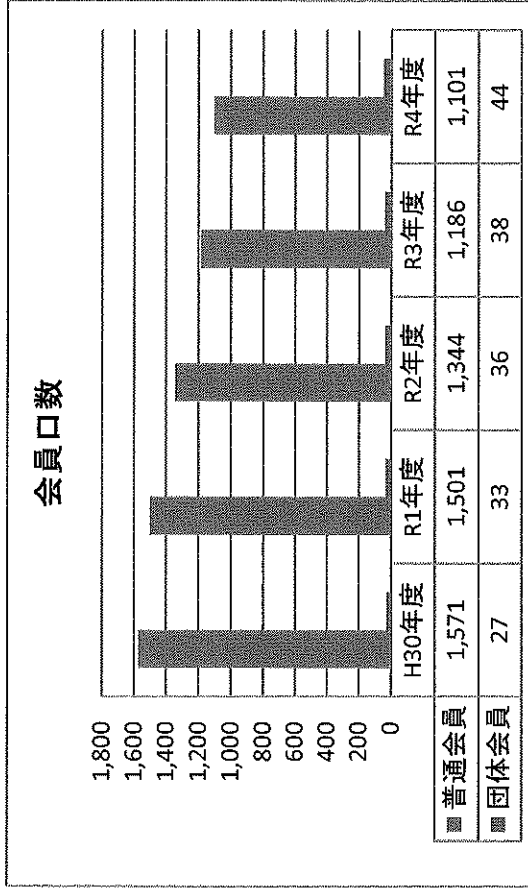
③社協会員加入状況（法人運営サービス区分）

《 会費収入額 781,900円 》

年々普通会員数が減少していますが、関係機関をはじめボランティアや社協だよりによる呼びかけを行い会員の加入促進を行いました。

結果として団体会員数は増加してきましたが、普通会員数が大幅に減り、唯一の自主財源である会費が微減し非常に苦しい状況が続いています。

会員増加の検討を行い解決策が見つからないままではありませんが、令和5年度より自治会員を設け、区長会へ丁寧な説明を行いながら理解と協力が得られるよう努めていきます。なお、1地区11,400円の自治会として協力いただいた地区があります。



4.法人運営と地域福祉計画の推進

④社会福祉事業（法人運営サービス区分他）

事業経営方針・改正された定款に基づき、理事会、評議員会、各種運営委員会を開催しました。
以下が会議の状況となっております。

月	日	会議内容等	場所
5	24	【令和3年度社協監査】会長・監事2名・事務局3名 計6名	福祉センター
6	3	【第1回理事会】理事8名・監事2名・事務局5名 計15名 ①令和3年度事業報告及び法人会計決算について ②役員等賠償責任保険加入等について ③評議員会の招集について 報告事項 ①各種積立金等の状況について ②社会福祉充実計画について	"
6	20	【第1回評議員会】評議員8名・理事1名・監事1名・事務局2名 計12名 ①令和3年度事業報告及び法人会計決算について ②役員等賠償責任保険加入等について 報告事項 ①社会福祉充実計画について ②福祉・介護人材確保対策の推進事業について	"
7	20	【成年後見事業運営委員会】委員5名・事務局3名 計8名 ①委員長・副委員長の互選について ②令和3年度事業報告及び現在の状況等について ③個別課題への対応について ④新規事業（未来のあんしんサポート事業）について	"
9	9	【第2回理事会】理事9名・監事2名・事務局4名 計15名 ①令和4年度第1次収支補正予算について ②評議員会への提案について 協議事項 ①社協会費の徴収方法等について 報告事項 ①職務の執行状況について ②生活福祉資金コロナ特別貸付状況について ③未来のあんしんサポート事業について ④経理規程の一部改正について ⑤職員の給与に関する規程の一部改正について ⑥第3期四万十市地域福祉計画（座談会）について	"
10	5	【配食サービス事業運営委員会】委員4名・事務局4名 計8名。 ①令和3年度・令和4年度上半期の実績について ②アンケート調査結果について ③事業運営の内容について	多目的デイケアセンター「一条の里」
12	9	【第3回理事会】理事8名・監事2名・事務局5名 計15名 報告事項 ①職務の執行状況について ②職員の給与等に関する規程の一部改正について ③職員就業規則の一部改正について ④菅原・介護休業等に関する規程の改正について ⑤生活福祉資金コロナ特別貸付状況について ⑥地域福祉計画の進捗状況について ⑦職員退職に伴う採用試験等の状況について ⑧次年度の理事会等の日程について	福祉センター
23	23	【小口生活資金貸付事業運営委員会】委員3名・事務局2名 計5名 ①令和3年度の貸付限度額の設定について ②令和5年度の貸付状況等について	"
17	17	【第4回理事会】理事8名・監事2名・事務局5名 計15名 ①令和4年度第2次補正予算について ②令和5年度事業計画及び法人会計予算について ③次期理事の推薦について ④役員規程の一部改正について ⑤役員等賠償責任保険加入等について ⑥評議員会の招集について 報告事項 ①職務の執行状況について ②隣接希望実施規程の制定について ③見守りサービス事業実施要綱の制定について ④職員の人事異動について ⑤第3期四万十市地域福祉計画（令和4年度地域座談会の実施状況）	"
3	27	【第2回評議員会】評議員9名・理事1名・事務局2名 計12名 ①令和4年度第2次補正予算について ②令和5年度事業計画及び法人会計予算について ③次期理事の選任について ④役員規程の一部改正について 報告事項 ①令和5年度評議員等の日程について ②第3期四万十市地域福祉計画（令和4年度地域座談会の実施状況） ③職員の人事異動について	"
9	9	【第1回臨時評議員会】審議決議（みなし決議） ①令和4年度第1次収支補正予算について	-

4.法人運営と地域福祉計画の推進

⑤社会福祉事業（法人運営サービス区分他）

役職員等の資質向上のため、下記のとおりコロナ対応としてオンライン受講も取り入れ研修会等へ参加しております。

月	日	研修等名称	市町村名	場所	参加者数
4	7	職業紹介責任者講習	四万十市	社会福祉センター	1
	15	第1回チーフ会	"	"	5
	16~17	赤十字救急法新任指導員研修会	高知市	赤十字血液センター	2
	26	監事研修会	四万十市	社会福祉センター	2
	11	第2回チーフ会	"	"	5
	12	第1回職員会	"	"	13
	13	高知県くらしのサポーター第1回フォローアップ研修	四万十市	一条の里	1
	13	生活福祉資金貸付制度説明会	高知市	ふくし交流プラザ他	3
	24	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の整備に向けたトップセミナー	四万十市	社会福祉センター	1
	27	社協職員基礎研修	高知市	ふくし交流プラザ	1
	30	高知県立大学社会福祉学部実習連絡協議会	四万十市	社会福祉センター	1
	30	第1回業務連絡会	"	"	6
	5	1	生活支援コーディネーター研修	四万十市	幡多福祉保健所
23		安全運転管理者等講習	黒潮町	ふるさと総合センター	1
24		介護助手スタートアップセミナー	四万十市	社会福祉センター	2
24		コミュニティソーシャルワーカー養成研修スタートアップ研修	高知市	ソーレ	1
26		高齢者レクリエーションワーカー養成セミナー	高知市	青少年センター	2
4		人権ふれあい第2講座	四万十市	文化センター	1
6	6	地域ケア会議（助言者向け）	四万十市	社会福祉センター	2
	6	コミュニティソーシャルワーカー養成研修スタートアップ研修	高知市	ふくし交流プラザ	2
	20	第3回チーフ会	四万十市	社会福祉センター	5
	20	第2回職員会	"	"	13
	26	第1回総務・会計部会	"	"	1
	7	7	コミュニティソーシャルワーカー養成研修スタートアップ研修	四万十市	社会福祉センター
10		第4回チーフ会	"	"	5
31		移動支援セミナー	"	"	2
5		第2回業務連絡会	"	"	6
12		社協職員基礎研修	高知市	ふくし交流プラザ	1
14		第3回職員会	四万十市	社会福祉センター	12
16		高齢者こころのケアサポーター養成研修	四万十市	幡多福祉保健所	1
20		高齢者虐待防止ネットワーク研修会	四万十市	市役所	2
26		四社協議権多プロック意見交換会	黒潮町	社会福祉センター	3
29		生活福祉資金貸付制度説明会	四万十市	社会福祉センター他	4
13		第5回チーフ会	四万十市	社会福祉センター	5
31		コミュニティソーシャルワーカー養成研修スタートアップ研修	高知市	ちよりの街テラス	1
4		福祉教育担当者連絡会	高知市	ふくし交流プラザ	1
4	高次脳機能障害支援者地域研修会	四万十市	一条の里	1	
9	第6回チーフ会	四万十市	社会福祉センター	5	
9	第4回職員会	"	"	11	
11	甲種防火管理再講習	高知市	県民文化ホール	1	
14	災害ボランティアセンター中核スタッフ研修	高知市	ふくし交流プラザ	1	
16	高知県社会福祉大会	"	"	2	
22	日常生活自立支援事業専門員研修会	"	"	1	
5	第3回業務連絡会	四万十市	社会福祉センター	6	
15	就職ガイダンスにおける講師	高知市	県立大学	1	
21	地域の見守り・支え合いのしくみづくり研修会	四万十市	社会福祉センター	2	

4.法人運営と地域福祉計画の推進

⑤社会福祉事業（法人運営サービス区分他）

役職員等の資質向上のため、下記のとおりコロナ対応としてオンライン受講も取り入れ研修会等へ参加しております。

月	日	研修等名称	市町村名	場所	参加者数
4	7	職業紹介責任者講習	四万十市	社会福祉センター	1
	15	第1回チーフ会	"	"	5
	16~17	赤十字救急法新任指導員研修会	高知市	赤十字血液センター	2
	26	監事研修会	四万十市	社会福祉センター	2
5	11	第2回チーフ会	"	"	5
	12	第1回職員会	"	"	13
	13	高知県くらしのサポートセンター第1回フォローアップ研修	四万十市	一条の里	1
	13	生活福祉資金貸付制度説明会	高知市	ふくし交流プラザ他	3
	24	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の整備に向けたトップセミナー	四万十市	社会福祉センター	1
	27	社協職員基礎研修	高知市	ふくし交流プラザ	1
	30	高知県立大学社会福祉学部実習連絡協議会	四万十市	社会福祉センター	1
	30	第1回業務連絡会	"	"	6
	1	生活支援コーディネーター研修	四万十市	帽多福祉保健所	2
	23	安全運転管理者等講習	黒潮町	ふるさと総合センター	1
6	24	介護助手スタートアップセミナー	四万十市	社会福祉センター	2
	24	コミュニティソーシャルワーカー養成研修スタートアップ研修	高知市	ソーレ	1
	26	高齢者レクリエーションワーカー養成セミナー	高知市	青少年センター	2
	4	人権ふれあい第2講座	四万十市	文化センター	1
7	6	地域ケア会議（助言者向け）	四万十市	社会福祉センター	2
	6	コミュニティソーシャルワーカー養成研修スタートアップ研修	高知市	ふくし交流プラザ	2
	20	第3回チーフ会	四万十市	社会福祉センター	5
	20	第2回職員会	"	"	13
26	第1回総務・会計部会	"	"	1	

月	日	研修等名称	市町村名	場所	参加者数
7	29	コミュニティソーシャルワーカー養成研修スタートアップ研修	四万十市	社会福祉センター	1
	10	第4回チーフ会	"	"	5
8	31	移動支援セミナー	"	"	2
	5	第2回業務連絡会	"	"	6
	12	社協職員基礎研修	高知市	ふくし交流プラザ	1
9	14	第3回職員会	四万十市	社会福祉センター	12
	16	高齢者こころのケアサポート養成研修	四万十市	帽多福祉保健所	1
	20	高齢者虐待防止ネットワーク研修会	四万十市	市役所	2
	26	四社協議権多ブロック意見交換会	黒潮町	社会福祉センター	3
10	29	生活福祉資金貸付制度説明会	四万十市	社会福祉センター他	4
	13	第5回チーフ会	四万十市	社会福祉センター	5
	31	コミュニティソーシャルワーカー養成研修スタートアップ研修	高知市	ちよりの里	1
	4	福祉教育担当者連絡会	高知市	ふくし交流プラザ	1
	4	高次脳機能障害支援者地域研修会	四万十市	一条の里	1
11	9	第6回チーフ会	四万十市	社会福祉センター	5
	9	第4回職員会	"	"	11
	11	甲種防火管理再講習	高知市	県民文化ホール	1
	14	災害ボランティアセンター中核スタッフ研修	高知市	ふくし交流プラザ	1
	16	高知県社会福祉大会	"	"	2
	22	日常生活自立支援事業専門員研修会	"	"	1
	5	第3回業務連絡会	四万十市	社会福祉センター	6
	15	就職ガイダンスにおける講師	高知市	県立大学	1
	21	地域の見守り・支え合いのしくみづくり研修会	四万十市	社会福祉センター	2

4.法人運営と地域福祉計画の推進

⑥指定管理者施設運営事業（指定管理者施設サービス区分）

四万十市多目的デイケアセンター 「一条の里」

《 市受託金収入（指定管理料） 決算額 1,943,374円 》 《正職員1名兼務》

多目的デイケアセンター「一条の里」で行っている事業については、次のとおりで各実績については前述のとおりです。

- ① 配食サービス事業
- ② まちなかサロン事業
- ③ はつつつデイサービス事業
- ④ 通所型サービスC事業
- ⑤ 障害者支援センター事業（相談支援事業）

⑥ 四万十子ども食堂（第2土曜日）年間 7回子ども323人・大人282人・ボランティア780人 計685人
年間13回予定（コロナで6回休み） テイクアウト方式5回、食材配付のみ2回

四万十市総合福祉センター

《 市受託金収入（指定管理料）決算額 951,772円 》 《正職員1名兼務》

総合福祉センターの貸室の状況は、次のとおりです。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
会議研修室	10	10	10	6	5	11	13	11	12	10	12	13	123
福祉関係事務室	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5
応接室・相談室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
休憩室	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	14	11	10	6	6	11	13	11	12	10	13	13	130

4.法人運営と地域福祉計画の推進

⑦公益事業 (福祉センター管理運営サービス区分)

社会福祉センターの貸室の状況は、次のとおりです。

四万十市社会福祉センター利用状況

月	大会議室			小会議室			老人憩いの室			研修室Ⅰ			研修室Ⅱ			小計			利用 合計	貸出 可能 数	利用割合				空室 割合								
	普通	免除	営業	普通	免除	営業	普通	免除	営業	普通	免除	営業	普通	免除	営業	普通	免除	営業			合計	普通	減額	免除		営業	合計						
																												普通	減額	免除	営業	普通	減額
4	1	8	5	13	1	7	6	49	1	6	4	4	13	5	81	1	32	21	135	30	450	18.0%	0.2%	7.1%	4.7%	30.0%	70.0%	22.9%	7.3%	3.8%	34.0%	66.0%	
5	7	4	5	15	1	11	7	45	1	7	11	1	10	5	84	1	31	9	125	31	465	18.1%	0.2%	6.7%	1.9%	26.9%	73.1%	14.8%	6.5%	1.7%	23.2%	76.8%	
6	8	6	3	2	14	2	9	2	51	1	10	3	11	1	94	10	32	16	152	30	450	20.3%	2.2%	7.1%	3.0%	33.8%	66.2%	5.6%	0.9%	1.6%	9.6%	90.4%	
7	7	4	9	4	10	4	51	1	10	13	4	9	6	8	87	4	38	21	150	31	465	18.7%	0.9%	8.2%	4.5%	32.3%	67.7%	20.0%	0.9%	9.0%	4.5%	34.4%	65.6%
8	7	7	1	7	8	9	44	1	7	3	4	10	3	2	75	0	21	17	113	31	465	16.1%	0.0%	4.5%	3.7%	24.3%	75.7%	15.1%	0.6%	5.6%	1.9%	23.2%	76.8%
9	12	1	19	14	8	3	49	1	13	12	10	1	13	4	98	2	52	8	160	30	450	21.8%	0.4%	11.6%	1.8%	35.6%	64.4%	16.7%	0.4%	1.8%	23.3%	76.7%	
10	14	23	1	23	7	3	50	3	21	5	6	3	10	17	118	5	56	24	203	31	465	25.4%	1.1%	12.0%	5.2%	43.7%	56.3%	25.8%	0.6%	9.2%	3.4%	39.1%	60.9%
11	8	2	31	3	19	2	7	50	10	9	2	10	12	9	97	4	60	21	182	30	450	21.6%	0.9%	13.3%	4.7%	40.4%	59.6%	25.9%	1.1%	8.0%	4.4%	39.3%	60.7%
12	5	4	22	1	15	10	4	38	5	8	17	1	11	3	77	4	67	10	158	28	420	18.3%	1.0%	16.0%	2.4%	37.6%	62.4%	22.9%	1.9%	12.6%	3.8%	41.2%	58.8%
1	17	15	14	8	4	37	1	43	1	8	9	15	9	1	91	0	42	6	139	28	420	21.7%	0.0%	10.0%	1.4%	33.1%	66.9%	19.0%	6.9%	0.5%	26.4%	73.6%	
2	2	19	2	22	10	5	43	4	9	1	11	5	10	1	86	2	57	20	165	28	420	20.5%	0.5%	13.6%	4.8%	39.3%	60.7%	16.4%	0.2%	2.1%	5.7%	24.5%	75.5%
3	11	2	9	6	24	2	11	5	43	1	20	2	14	1	112	7	45	15	179	31	465	24.1%	1.5%	9.7%	3.2%	38.5%	61.5%	17.4%	0.2%	12.7%	1.1%	31.4%	68.6%
合計	99	19	169	30	190	8	107	53	550	0	14	11	129	9	111	28	132	4	132	359	5,385	20.4%	0.7%	9.9%	3.5%	34.6%	65.4%	18.5%	0.6%	7.2%	2.8%	29.1%	70.9%

普通 教育、福祉関係の会議、組合会議、サークル活動(体操、踊り)、法律・就職相談、宗教団体、政治団体

減額 市内の福祉団体、県社会福祉協議会、県聴覚障害者協会、介護福祉士会、社会福祉士会

免除 市、市教育委員会、市教育研究所、ボランティア、福祉関係サークル、行政相談、社協事業・団体事務等

営業 営業会議、健康セミナー、民間資格養成講座、学校説明会・入学試験

4.法人運営と地域福祉計画の推進

⑧公益事業（福祉センター管理運営サービス区分）

社会福祉センターの貸室の内、利用料免除での使用状況は次のとおりです。

四万十市社会福祉センター利用状況（免除）

月	大会議室			小会議室			老人憩いの室			研修室Ⅰ			研修室Ⅱ			小計			合計
	市	団体	社協	市	団体	社協	市	団体	社協	市	団体	社協	市	団体	社協	市	団体	社協	
4	4		4	2		5				1	2	1	3	6	4	10	8	14	32
5			4	3	3	5				2	3	6		5		5	11	15	31
6			3	1	6	2				4	6	6	2	5	3	3	15	14	32
7	4		5	3		7				1	3	9		6		8	9	21	38
8	2		5	2	4	2						3		1	2	4	5	12	21
9	12		7	1	2	5				5	3	4	3	7	3	21	12	19	52
10	19		4	1	3	3		3		2	2	2	10	6	1	35	11	10	56
11	25		6	1	4	3				3	2	4	6	5	1	35	11	14	60
12	21		1	3	2	5		5		5	2	10	6	6	1	40	10	17	67
1	13		2	1	3	4		1				9	1	4	4	16	7	19	42
2	6			1	3	6			4	2	2	7	3	5	5	12	10	35	57
3	4			2	3	6			1	1	2	3	3	9	6	10	14	21	45
合計	110	0	59	21	33	53	9	0	5	22	25	64	37	65	30	199	123	211	533

市
団体
社協

教育委員会・教育研究所・行政相談
精神障害者家族会「虹の会」・朗読の会虹・中村手話サークルわかあゆ・認知症家族の会たんぽぽの会
社協事業・民協・日赤・共募・人材バンク・老人クラブ・身障連・ボランティア連絡協議会・四社連・ボランティア勉強会

令和4年度 事業報告の付属明細書

令和5年3月31日

四万十市社会福祉協議会

1. 他の法人等の重要な兼職の状況

区分	氏名	兼職先	兼職の内容	関係
理事	大林 郁男	特記すべき兼職はない		
〃	中平 晋祐	特記すべき兼職はない		
〃	嶋 博茂	特記すべき兼職はない		
〃	宮村 和輝	特記すべき兼職はない		
〃	川村 博	特記すべき兼職はない		
〃	上岡 敬	特記すべき兼職はない		
〃	安田 沙知	特記すべき兼職はない		
〃	佐伯 達雄	特記すべき兼職はない		
〃	岡村 武彦	特記すべき兼職はない		
監事	弘井 弘	特記すべき兼職はない		
〃	北澤 美智子	特記すべき兼職はない		

2. その他

- ・ 事業報告を補完すべき事項はありません
- ・ この明細書は、四万十市社会福祉協議会定款第39条第1項第2号により添付しております